いわて幸福白書 2021

第１部 新型コロナウイルス感染症と幸福

「新型コロナの感染拡大防止と今後の地域医療について」
一般社団法人岩手県医師会 会長 ……… 小原　紀彰 氏
岩手医科大学 理事長 ……………………… 小川　彰 氏

第２部 令和３年の幸福トレンド

「コロナ後における地域の幸福」　一般財団法人日本総合研究所 会長 …… 寺島　実郎 氏
「地域資源を生かした岩手の幸福」　建築家 ……………………………… 隈　研吾 氏

第３部 「希望郷いわて」の今

第４部 データ編

岩手県

いわて幸福白書2021

はじめに

本県の総合計画「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」は、広く意見を伺いながら、「オールいわて」で策定した計画であり、行政だけではなく、関係団体や企業、ＮＰＯなど多様な主体が 10 年後の将来像を共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンとなるものです。

本県では、広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復興に当たり、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を原則の一つに掲げ、県民一丸となって取組を進めてきました。

「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」のもと、こうした復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、物質的･経済的な豊かさに加え、心の豊かさを大切にしながら、一人ひとりの暮らしや仕事に着目した施策を推進し、東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てることで、県民一人ひとりが希望を持つことのできる「希望郷いわて」を目指していくこととしています。

「いわて幸福白書」は、こうした考えのもと、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを御紹介するとともに、県の施策や今後の方向について広くお伝えするものです。

令和 2 年（2020 年）に国内外で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、令和 3 年（2021 年）に入ってもなお、人々の仕事や暮らし、学びに大きな影響を及ぼしています。

このような中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、感染者の少なさなど地方の良さや暮らしやすさが再認識されており、地域づくり、ふるさとづくりにおける大きな転機を迎えています。

こうした地方への関心の高まりを踏まえ、岩手の良さを生かしながら、感染防止対策の徹底を前提に、社会経済活動の回復を図っていくことが、「いわて県民計画（2019 ～ 2028）」の目標にまっすぐ向かっていくことにつながります。

岩手の先人、宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。

時代の潮流やチャンスを捉えるとともに、「他人とのかかわり」や「つながり」を大切にする岩手県ならではの社会観を生かしながら、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を目指し、みんなで行動していきましょう。

一緒に頑張る仲間

孫と遊ぶこと

常連さんとの再会！

あなたの幸福はなんですか？

患者さんの笑顔

もちろん大漁！

ともだちと遊ぶ

かぞくの健康

もくじ INDEX

第1部

新型コロナウイルス感染症と幸福

2020年
1-2月
中国から伝わった異変

▼国内の感染状況
2020.02.29

※朝日新聞集計データから作成。以下同じ。

▼世界の感染状況
2020.02.29

国	人
中国	78,824
韓国	2,337
イタリア	888
イラン	388
日本	236
香港	94
シンガポール	93

※日本経済新聞電子版ビジュアルデータから作成。以下同じ。

新型コロナウイルス感染症に関する岩手県の対応 ～365日の記録～

全世界に瞬く間に広がった、新型コロナウイルス感染症。
4月18日以降、全国唯一の「感染者ゼロ県」として注目を集めてきた岩手県が、
見えない敵を相手にどのように対応してきたのか、1年間の軌跡をまとめました。

新型肺炎から岩手を守る県対策本部を設置

2019年末に、中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎の集団感染が発生し、2020年１月には国内で初めての感染者が確認されるとともに、世界的にも感染拡大の兆候が表れ始めました。これを受けて政府は、1月28日に新型コロナウイルスによる肺炎について「指定感染症」に決定しました。岩手県でも県医師会や医療関係者との日頃からの協力関係を生かし、国の専門家会議設置に先立ち、2月11日には「岩手県新型コロナウイルス感染症対策専門委員会」を設置するとともに、2月18日には知事を本部長とする対策本部を設置し、相談・検査・治療へとつなげていく体制を構築しました。

花巻空港の検疫所を通過する中国・上海から到着した乗客（岩手日報　令和2年1月19日付）

2020年の出来事
ドキュメント365

岩手県内

1/18 花巻空港、上海からの乗客の健康状態確認
1月18日、国内初の感染者が確認されてから初めてとなる中国・上海からの国際便が花巻空港に到着し、仙台検疫所の検疫官が乗客の健康状態を慎重に確認した。

2/8 帰国者・接触者外来等を設置
「帰国者・接触者外来」及び「帰国者・接触者相談センター」を設置し、感染が疑われる事例についての様々な相談に対応し、検査・治療へとつなげていく体制を構築した。

1/9　1/16　1/18　1/28　1/29　2/5　2/8　2/13

国内・世界

1/9 「原因不明の肺炎」報告 新型コロナウイルス検出
2019年12月31日、中国・武漢で原因不明の肺炎の集団感染が確認された。1月9日には、中国の専門家グループが新型コロナウイルスを検出したことが明らかになった。

1/16 国内初の感染者確認
2020年1月16日、中国・武漢から帰国した神奈川県の男性が、国内で初めて感染していることが確認された。

1/28 新型肺炎を指定感染症に閣議決定
中国で発生した新型コロナウイルスによる肺炎について、1月28日、政府は感染症法で定める指定感染症とする方針を閣議決定した。

1/29 世界への感染拡大が本格化
中国では1月下旬までに、ほぼ全土に感染が拡大し、1月29日時点で中国本土の感染者は5,974人に達した。この後、ドイツやイタリア、インドなどに広がり始めた。

2/5 ダイヤモンドプリンセス号で感染発生
2月5日、大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客乗員のうち10人から新型コロナウイルスの感染が確認された。

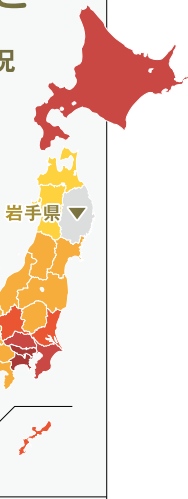
2/13 国内初の死者確認
国内初となる新型コロナウイルス感染者の死亡が確認された。

2020年

3-4 月

異変が危機へと変わった

岩手県の感染状況 2020.04.30
死者 0人　感染者 0人

▼国内の感染状況
2020.04.30

▼世界の感染状況
2020.04.30

「感染未確認地域」の維持に向け基本的対処方針を策定

全国的な感染拡大を踏まえ、4月10日に「岩手県新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を策定しました。

この対処方針では、「感染未確認地域」の状態を維持すること等を基本目標として掲げるとともに、県民など岩手に関わる全ての人が、密閉・密集・密接を避けることや手洗いを励行すること、ソーシャルディスタンスを確保することなどを対策の基本として定めました。

また、対策の実施に関する重要事項として、県民への必要な情報提供や注意喚起、検査体制の充実、医療提供体制の確保、県民の生活を守るための経済的支援などに取り組んでいくことを定めました。

マスク姿で卒業式に臨む高校3年生。在校生は出席せず、式の途中も消毒を徹底する厳戒態勢となった（岩手日報 令和2年3月2日付）

緊急事態宣言が全国に拡大 県も外出自粛や休業を要請

4月16日に緊急事態宣言の対象区域が全国に拡大されたことを受け、4月17日には達増知事が県民等に向けて、不要不急の帰省や旅行などの自粛を要請したほか、他都道府県から来県した人には、来県後2週間は行動を自粛するよう協力を求めました。さらに4月25日から5月6日まで、接待を伴う飲食店や遊技場などに休業を要請し、協力金を支給しました。一方、繁華街への人出が大幅に減少する中、影響を受けた飲食店が持ち帰りサービスを提供し、県民による地元飲食店を応援する動きも活発化しました。

土曜日の昼にもかかわらず、閑散とする盛岡市内（岩手日報 令和2年4月26日付）

卒業式の規模縮小・中止相次ぐ

3月1日、県内の公立・私立高校のうち66校が感染症対策を徹底し、規模を縮小して卒業式を行った。
また、大学・短期大学では、次々と卒業式の中止が決定された。

チャグチャグ馬コ中止へ

全国的な感染拡大を踏まえ、本県の初夏を彩る2020年のチャグチャグ馬コが中止の方向となった。中止となれば現在の形となった1948年以降初めてで、関係者からは「やむを得ないが残念」との声が上がる。

大型連休を控え県民に自粛を要請

緊急事態宣言が全国に発令されたことにより、4月17日から20日間にわたり、大型連休期間を含めて、不要不急の外出の自粛を要請した。帰省・旅行はもとより、接待を伴う飲食店等の利用についても自粛を求めた。

「街閑散」外出自粛要請後の週末

県からの不要不急の外出自粛要請や接待を伴う飲食店等への休業要請を受け、各地の商業施設が休業に入り、街中は閑散な状況となった。

3/1　3/11　3/24　4/10　4/11　4/16　4/17　4/25

WHOがパンデミックと認定

3月11日、世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルス感染症の感染拡大について、世界的な大流行を意味する「パンデミック」と認定した。

東京五輪・パラリンピック1年延期

3月24日、総理大臣等が国際オリンピック委員会（IOC）と協議し、世界的な感染拡大を踏まえ、1年程度の延期を検討することで合意した。

緊急事態宣言、全国に拡大

4月7日、政府は埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を出し、16日には対象区域を全国に拡大した。

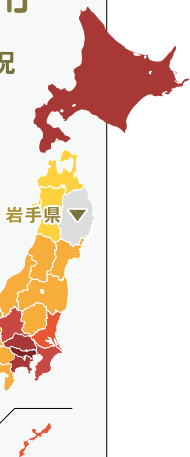
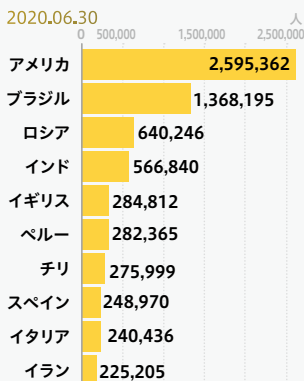
世界の死者10万人に

3月に死者数で世界最多となったイタリアをはじめ、米国やスペインを中心に、欧米への感染拡大が進み、世界の死者が10万人に迫った。

2020年
5-6月

岩手県の感染状況
2020.06.30
死者 0人　感染者 0人

感染防止 工夫凝らし 活動再開

▼国内の感染状況
2020.06.30

▼世界の感染状況
2020.06.30

県中総体・高総体は中止 観光施設は営業再開へ

緊急事態宣言下の県内は、大型連休期間中も観光地の人出は多くありませんでした。5月7日以降は、接待を伴う飲食店などに出していた休業要請を全て解除し、大型連休中に臨時休校した県立学校も再開しました。例年5月・6月に開催される県中総体・高総体は中止となり、一部では地区ごと、競技ごとの代替大会が開催されました。また、5月25日の緊急事態宣言の解除を受けて、6月1日から県内の観光施設が営業を再開し、感染予防策を徹底しながら観光客の受入態勢を整え、県外からの誘客も本格的に動き出しました。

全国唯一の「感染者ゼロ」 東日本大震災津波の経験に基づく危機管理を徹底

本県は、7月29日に感染者が確認されるまで、都道府県の中で唯一、いわゆる「感染者ゼロ」の状況が続き、国内外から多くの注目を集めました。

この要因については、人口密度の低さや真面目で慎重な県民性、国に先立った対策、復興の経験に基づく危機管理の高さなど、様々な議論がありました。

また、震災時に全国初の体制として、避難所等の感染制御対策に当たり、震災以降、常設しているICAT（いわて感染制御支援チーム）の適切な指導等の効果も指摘されました。

閑散とした盛岡駅東口タクシー乗り場
（岩手日報 令和2年5月27日付）

ICAT（いわて感染制御支援チーム）

5/4　5/5　5/8　5/15　5/20　5/25　6/1　6/28

政府が緊急事態宣言の延長を表明

政府の対策本部は、緊急事態宣言の対象区域を全国としたまま5月31日まで延長することを決定した。

県内休業要請を解除へ

5月5日、県は緊急事態宣言の延長に伴う5月7日以降の対応を決定し、接待を伴う飲食店などに出していた休業要請を全て解除するとともに、臨時休校していた県立学校の授業を再開した。

米国失業率 戦後最悪

5月8日に米労働省が発表した4月の雇用統計において、感染拡大の影響により失業率が戦後最悪となる14.7%に急上昇した。

「県内感染者第1号に優しく」 中傷の風潮に警鐘

県内第1号の感染者には優しく対応を－。達増知事は5月15日の定例記者会見で、「誰もが感染する可能性がある。感染は悪ではないと心に刻んでほしい」と述べ、感染者を中傷する風潮に警鐘を鳴らした。

夏の全国高校野球、戦後初の中止決定

日本高校野球連盟などは、8月に予定していた全国高等学校野球選手権大会を中止することを決めた。同大会が中止となるのは戦後初めて。

緊急事態宣言、全国で解除

政府は、北海道と首都圏の1都3県の緊急事態宣言の解除を決定し、4月7日に出された宣言は約1か月半ぶりに全国で解除された。

県内観光再開 3密回避を徹底

緊急事態宣言の全面解除を受け、休業していた県内の主要観光施設が6月1日から営業を再開した。当面の間、県民による観光振興を軸とし、各施設とも検温や入場制限など3密回避の対策を徹底しながら、にぎわいの回復に踏み出す。

世界で感染者1,000万人

6月28日、世界の感染者が累計1千万人に達し、翌日には死者数が50万人を超えた。

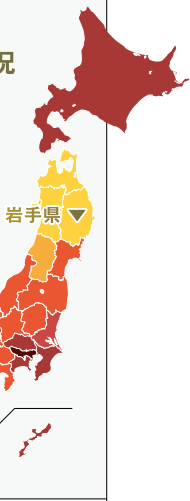
2020年

7-8月

県内初の新型コロナ感染者

岩手県の感染状況
2020.08.31

死者	感染者
0人	19人

▼国内の感染状況
2020.08.31

▼世界の感染状況
2020.08.31

「いわて未来づくり機構」が新型コロナに関する宣言を採択

7月10日に、産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」が、令和2年度第1回ラウンドテーブルにおいて「いのちと健康を守り、生活となりわいと学びを支える岩手宣言」を採択しました。

この宣言では、全ての県民が、豊かな自然環境や、粘り強く真面目な県民性などの岩手の良さを大切にしながら、感染対策を工夫し、生活・なりわい・学びの場での新しい日常を進めていくことや、医療関係者など県民生活に不可欠なサービスの提供に従事している方々に、感謝と思いやりの気持ちを持って応援することなどを盛り込みました。

いわて未来づくり機構「いのちと健康を守り、生活となりわいと学びを支える岩手宣言」

県内で初めて感染者を確認 誹謗中傷やデマ拡散を懸念

全国で唯一、感染者ゼロが続いていた岩手県でしたが、7月29日、県内で初めて感染者が確認されました。また、検査体制を強化し、県内に9つある二次医療圏全てに計10か所の地域外来・検査センターを設置しました。さらに、医療提供体制の確保としては、350床以上の病床を確保し、県庁に設置した入院等搬送調整班が、重症度に応じた入院調整を行う仕組みを整え、陽性者は無症状や軽症であっても一旦は入院し、必要な検査と治療を行う、岩手独自の手厚い体制を整備しました。

いのちと健康を守り、生活となりわいと学びを支える岩手宣言

岩手県は、新型コロナウイルスの感染者が確認されないまま、緊急事態宣言解除を迎えました。その後も、感染者は確認されておりません。

このことは、県民の皆様の努力のたまものであり、感謝を申し上げます。

岩手県の感染リスクの低さの背景には、いわての豊かな自然環境、広い県土と山が多い地形、平穏な日常を守ろうと奮闘してきた歴史、東日本大震災津波の経験でより高まった危機意識、粘り強く真面目な県民性などがあります。

こうしたいわての良さを大切にしながら、「新しい生活様式」に沿って感染対策をしっかり行うことで、様々な社会経済活動が可能です。その場に合った感染対策をみんなで工夫し、生活、なりわい、学びの場での新しい日常を進めていきましょう。

感染対策のみならず、地域医療に従事している医療関係者をはじめ、ライフライン、物流、保育や障がい者・高齢者福祉など、県民生活に不可欠なサービスの提供に従事している皆様に、感謝と思いやりの気持ちを持って応援しましょう。

児童・生徒の皆さん、岩手県内外で学生生活を送っている皆さんは、自己実現に向けて、厳しい時期だからこそ将来のことをしっかりと考えてほしいと思います。しっかり学び続けられるよう、私たちは皆さんの未来を応援しています。

県民みんなで、いわての変わらない良さをさらに磨き上げ、県外の皆さんとも共有しながら、お互いの幸福を守り育て、豊かな生活、なりわい、学びを実現しましょう！

令和2年7月10日

いわて未来づくり機構　ラウンドテーブルメンバー

岩手県商工会議所連合会 会長 谷村邦久
一般社団法人岩手経済同友会 代表幹事 高橋真裕
大船渡商工会議所 会頭 米谷春夫
国立大学法人岩手大学 学長 小川智
公立大学法人岩手県立大学 学長 鈴木厚人
岩手県知事 達増拓也
一般社団法人岩手県医師会 会長 小原紀彰
学校法人岩手医科大学 理事長 小川彰

7/11

PCR検査実施可能件数の増強

県内のPCR検査実施可能件数は、8月末までに1日864件に増強された。これにより、県内で感染拡大した場合、ピーク時には1日444件の検査が想定され、十分な対応力が整えられた。

7/22

「Go To トラベル」キャンペーン開始

政府は、観光需要の喚起策として、旅行代金の割引やクーポンが発行される「Go To トラベル」キャンペーンを開始した。

7/28

国内の死者1,000人を超える

国内の感染による死者数が1,002人になったほか、クルーズ船の乗船者が13人死亡し、死者数は合わせて1,015人となった。

7/29

県内初の新型コロナ感染発生

7月29日、県は県内で初めての感染者が確認されたと発表した。

8/11

世界の感染者2,000万人に

8月11日、世界の累計感染者数が2千万人に迫った。特にインドでの増加が顕著で、8月上旬からは世界最多ペースに。

8/17

4-6月期GDP伸び率大きくマイナスに

内閣府が4月から6月までのGDP(国内総生産)を発表した。実質伸び率は、年率に換算してマイナス27.8%と、リーマンショックを超える落込みとなった。

8/27

県内初のクラスター発生

県は、盛岡市と遠野市で感染が確認された案件について、県内初のクラスター（感染者集団）に該当するとの見解を示した。

2020年
9-10月

岩手県の感染状況
2020.10.31
死者 0人 感染者 27人

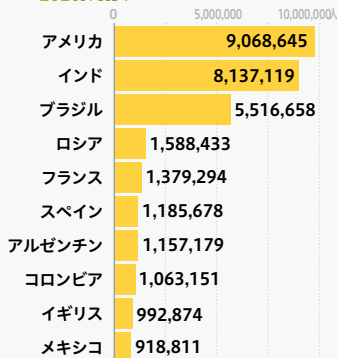
Go To トラベル県内活況

▼国内の感染状況
2020.10.31

10,000 人以上
5,000 人以上
1,000 人以上
500 人以上
100 人以上
50 人以上
10 人以上
1 人以上
0 人

岩手県

▼世界の感染状況
2020.10.31

国	感染者数
アメリカ	9,068,645
インド	8,137,119
ブラジル	5,516,658
ロシア	1,588,433
フランス	1,379,294
スペイン	1,185,678
アルゼンチン	1,157,179
コロンビア	1,063,151
イギリス	992,874
メキシコ	918,811

コロナ関連の事業を盛り込み 大型の補正予算に

9月3日に発表した県補正予算案において、運賃収入が激減したバス・タクシーなどの公共交通への交付金をはじめ、市町村の経済対策事業への補助や、企業のテレワーク導入支援などを盛り込みました。

また、飲食店をはじめとした事業者の感染対策への支援や感染症対策の実行宣言に係るステッカー等の配布、業種別の感染拡大防止ガイドラインに取り組みやすい環境を整えるためのモデル店舗の選定を行うとともに、県内全飲食店への積極的な周知、テレビ等を活用した広報も行いました。

このような事業者の取組や、感染防止への県民の高い意識等により、9月4日以降、約1か月間は新規感染者が確認されませんでした。

観光の経済打撃は1,101億円 観光客数も81%減少

岩手経済研究所によると、2020年4月から7月までの県内主要観光地を訪れた人は、過去３年の同期平均比で81％減少し、感染拡大による経済的打撃は、1,101億1,600万円にのぼるとの推計をまとめました。一方、10月1日からは「Go To トラベル」に東京都発着旅行が加わったことにより、県内の観光地には都内からの予約が相次ぎ、好調な滑り出しとなりました。また、イベントが各地で徐々に始まり、「ゆるキャラ® グランプリ」や「いわて・かまいしラグビーメモリアルイベント」など全国規模のイベントも開催されました。

内定式に臨む学生たち。コロナ対策として対面とオンラインが併用された（岩手日報 令和2年10月2日付）

花巻温泉の公式キャラクターの出迎えを受ける児童（岩手日報 令和2年9月5日付）

東京追加に期待と警戒 県内観光誘客図る

10月1日から「Go Toトラベル」に東京都発着旅行が加わったことを受け、県内の観光業者の期待が高まり、感染リスクの高まりを警戒しつつ、「観光振興の起爆剤に」と巻き返しを図った。

採用内定式に オンライン活用進む

10月1日、来年３月卒業予定の学生への採用内定が解禁され、県内企業は内定式を行った。感染対策として、オンライン形式を導入するケースが相次いだ。

医療現場にエール LINE活用し募集

最前線で闘う医療現場にエールを ー。県は、10月23日から県内医療従事者らへの応援メッセージを無料通信アプリLINEで幅広く募った。

9/5 9/9 9/24 9/29 10/1 10/2 10/14 10/23

WHOがワクチン供給 時期の見通しを表明

WHOは、ワクチンを公平に分配するための国際的枠組による供給を来年中頃には始められるという見通しを明らかにした。

コロナ解雇6万人超え、雇用悪化

9月24日、厚生労働省は感染拡大の影響による解雇・雇い止めの人数が累計６万439人（うち2万５千人が非正規労働者）となったことを発表した。

世界の製薬会社 安全最優先を宣言

ワクチンを開発しているイギリス・アメリカの大手製薬会社が共同で宣言を発表し、安全を最優先に開発を進めると強調した。

世界の死者 100万人突破

新型コロナウイルス感染症による死者が世界全体で100万人を超えた。感染者は3,300万人超、死亡率は約3%。

トランプ大統領が 新型コロナウイルスに感染

アメリカのトランプ大統領とメラニア夫人が、ウイルス検査で陽性になったことを自らのツイッターで明らかにした。

ヨーロッパで感染急拡大

フランス政府は感染拡大を受けて、3か月ぶりに非常事態を宣言し、首都パリなどで夜間の外出を禁止した。ヨーロッパでは、感染拡大に歯止めをかけようと厳しい規制を導入する動きが相次いだ。

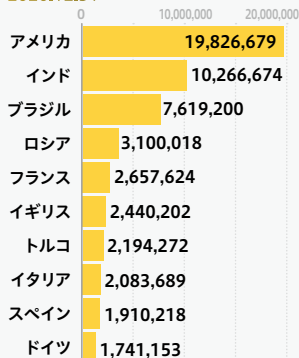
2020年
11-12月

岩手県の感染状況 2020.12.31
死者 24人 感染者 385人

全国的な第3波に厳重警戒

▼国内の感染状況
2020.12.31

▼世界の感染状況
2020.12.31

国	感染者数
アメリカ	19,826,679
インド	10,266,674
ブラジル	7,619,200
ロシア	3,100,018
フランス	2,657,624
イギリス	2,440,202
トルコ	2,194,272
イタリア	2,083,689
スペイン	1,910,218
ドイツ	1,741,153

感染拡大による「第3波」 県内でもクラスターが発生

観光支援に続く第2弾として、飲食業界を支援する「Go To イート」のプレミアム付き食事券の販売・利用が11月1日からスタートし、販売窓口には、チケットを買い求める大勢の人が行列を作りました。しかし、全国各地で再び感染が拡大し、「第3波」が到来しました。11月13日には、盛岡市内の飲食店でクラスターが発生し、その後、病院や福祉施設でも集団感染が発生するなど、クラスターからの二次感染が広がる中、感染源をたどれない事例も増加しました。県は、このようなクラスターに対応するため、DMAT（災害派遣医療チーム）等による入院等搬送調整班と、ICAT（いわて感染制御支援チーム）からなる、「いわて医療福祉施設等クラスター制御タスクフォース」を設置し、感染制御と医療搬送の対応に当たっています。

「Go To イート」のプレミアム付き食事券を購入するため販売窓口にできた行列（岩手日報 令和2年11月2日付）

冬のイベントの中止 忘年会の自粛 年末年始の帰省客の減少

東京都をはじめとした全国的な感染拡大の勢いが止まらない中、県内でも高齢者や基礎疾患のある人が重症化に陥るなど、予断を許さない状況が続いていました。冬の風物詩である「いわて雪まつり」など、冬季間のイベントは軒並み中止が決定しました。また、県内企業の約80％が忘年会を見送ったため、繁華街の人出は大きく減少しました。12月28日には達増知事が、人の移動や人が集まる機会が増える年末年始の過ごし方について、改めて注意を促しました。

大きな荷物や土産物を手にするマスク姿の帰省客たち（岩手日報 令和2年12月28日付）

（参考資料：岩手日報）

11/1 「Go To イート」キャンペーン開始
11月1日、感染拡大で打撃を受けた飲食業界を支援する「Go To イート」のプレミアム付き食事券の販売・利用が始まった。お得感から大勢が買い求め、冷え込む需要の喚起効果に関係者の期待は高まった。

11/18 国内感染者数が過去最多の2,201人に
11月18日の国内感染者数は2,201人となり、1日当たりでは初めて2,000人を超えた。

11/21 県民の警戒高まり 繁華街の人出減少
感染拡大が続く中で迎えた3連休初日の11月21日、県内では「Go To トラベル」の影響でにぎわう温泉や行楽地があった一方、飲食店や繁華街の人出は少なく、感染を危惧する県民が遠出や外食を控える傾向がみられた。

12/8 イギリスでワクチン接種が始まる
アメリカのファイザーとドイツのビオンテックが開発したワクチンの接種が、イギリス各地で始まった。

12/15 「Go To トラベル」全国一時停止へ
政府は「Go To トラベル」について、12月28日から2021年1月11日までの間、全国一斉に運用を停止することを決めた。

12/20 変異ウイルス、欧州各国が警戒
イギリスでは、変異した新型コロナウイルスの感染が拡大し、これを受けてヨーロッパ各国がイギリスからの旅客機の受入れを停止する措置をとることを決めた。

12/25 コロナ変異ウイルス 空港検疫で初確認
12月25日、国内の空港に到着した男女5人が、イギリスで感染が広がっている変異した新型コロナウイルスに感染していることが確認された。このウイルスへの感染が検疫で確認されたのは初めて。

12/28 年末年始の帰省様変わり
感染が拡大する中、県内の主要な駅や空港に降り立った帰省客は少なく、代わりにビデオ電話などで「オンライン帰省」する新しい様式が浸透した。収束を願いながらの「静かな年末年始」に。

12/31 全国で4,520人感染 過去最多
東京都は、新たに1,337人が感染していることを発表した。全国でも4,520人の感染が確認され、1日の感染が4,000人を超えるのは初めてとなった。

新型コロナの感染拡大防止と今後の地域医療について

県内の地域医療の最前線では、医療従事者の方々に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や感染者の治療などに大変な御尽力をいただいています。

今回は、県内の医療界を代表して、一般社団法人岩手県医師会の小原紀彰会長と岩手医科大学の小川彰理事長から、県内の感染状況に関する見解や今後の地域医療の在り方などについてお話を伺いました。

一般社団法人岩手県医師会　会長
小原 紀彰氏

おばら・のりあき

1968年3月岩手医科大学医学部卒業。勤務医を経て、1978年12月花巻市で小原クリニックを開業。花巻市医師会副会長、岩手県医師会副会長などを経て、2018年6月から岩手県医師会会長。2020年6月から日本医師会理事。

―― 全国的に第3波が発生していますが、現在の県内の感染状況や医療提供体制をどのように見ていますか。

小原会長　令和2年の11月と12月に医療機関などでクラスターが発生したことにより感染者数が急増したこともあり、今後の感染拡大を懸念しています。

医療提供体制については、郡市医師会等の協力を得て、ＰＣＲ検査を円滑に実施できる体制がおおむね整備されており、感染者の受入れについても、フェーズに分けた体制が十分に整っていると思われます。

また、医療機関の役割分担について、一次医療はまちの開業医が担い、二次医療は二次医療圏[※]ごとの中核病院が担い、高度で専門的な医療は大学病院が担うという棲み分けがうまく機能していると思います。

―― 岩手県では感染未確認が全国で最も長く続き、感染者が確認された後も、クラスターが発生した令和2年11月までは感染者数が全国でも低位にありましたが、その要因としてどのようなことが考えられますか。

小原会長　岩手県民は非常に真面目で律儀な人が多いことや、東日本大震災津波の経験が生きていること、広い県土のため人口密度が低いことが要因として考えられます。

また、感染拡大を抑えるためには、感染者の早期発見が肝要であることから、県や市町村などと連携し、県内の二次医療圏ごとに10箇所の地域外来・検査センターを設置し、住民により身近な場所でＰＣＲ検査の検体を採取できる体制を整備したことも挙げられます。

―― 今後の感染状況はどのように推移するとお考えですか。

小原会長　岩手県の場合は、県内の往来だけで突発的に発生する可能性は低いと思われますので、東京など感染者数が多い県外との往来にさえ注意すれば、クラスターを抑え込むことがで

※このインタビューは令和３年１月に行ったものであり、発言内容が本冊子発行時点における新型コロナウイルス感染症の情勢と異なる場合があります。

き、徐々に収束に向かっていけると考えます。

今後は、ワクチン接種が広く普及されるかどうかがポイントだと思います。県医師会としましては、随時情報収集を行い、ワクチン接種が円滑かつ適切に行われるよう、接種に当たる医師などに対して必要な支援を行っていきたいと考えています。

―― これからの岩手の地域医療はどうあるべきとお考えですか。

小原会長　今後の医療については、このような緊急事態に備え、経済効率だけを重視せず、日頃から病床数や医療従事者数の余裕を持って確保する必要があるという課題が、新型コロナの感染拡大により露呈したと考えます。このため、医療は市場経済に馴染むものではないということについて、今後、強く主張していきたいと思います。

また、医療はインフラや食料などと同じく、全ての社会経済活動の土台となるものであり、これが充実していなければ最低限の幸福を得ることはできないと思います。社会資本として交通ネットワークがあるように、医療においても関係機関による連携体制を構築し、誰一人として取り残すことのないよう支えていくことが必要と考えます。

加えて、地域医療は何よりも人材の確保が重要だと思いますので、関係機関がそれぞれの役割を果たしながら相互に連携し、医師や看護師など医療従事者の確保に努めていきたいと思います。

―― 最後に、感染拡大防止に向けて、県民へのメッセージをお願いします。

小原会長　岩手県の医療提供体制は、他県と比べても相当充実しています。

自分だけではなく、相手も思いやって感染防止策を実践することが岩手県全体の幸福にもつながると思いますので、引き続き３密の回避や手洗いの励行など基本的な行動をとっていただくようお願いします。

※二次医療圏…入院を中心とする一般の医療需要に対応するほか、広域的・専門的な保健サービスを効果的・効率的に提供するための圏域。

新型コロナの感染拡大防止と今後の地域医療について

岩手医科大学　理事長

小川 彰氏

おがわ・あきら

1974年3月岩手医科大学医学部医学科卒業。同年4月東北大学医学部付属脳疾患研究施設脳神経外科入局。1988年5月から東北大学医学部助教授を務め、1992年10月岩手医科大学脳神経外科学講座教授。2003年4月から同大学医学部長、2008年1月から同大学学長を務め、2012年2月同大学理事長に就任。2008年5月から2010年5月まで全国医学部長病院長会議会長、2019年5月から一般社団法人日本私立医科大学協会会長を務める。

── これまでの県内の感染状況を振り返ってみて、どのように感じていますか。

小川理事長　県内の感染者数は、令和２年の７月末までゼロが続き、その後もしばらくの間は全国で最も少ない状況にありましたが、飲食店や医療機関などでクラスターが発生したことにより急増し、現在も増え続けている状況です。県内でも本格的な流行が懸念されており、クラスターがこれほど威力があって怖いものだということを改めて感じています。

一つ強調したいのは、岩手県は他の都道府県と異なり、これまでのところ、ほとんどの感染源を追跡できているため、感染者が多い他の都道府県と比べて対策の施しようがあるということです。

── 現在の県内の医療提供体制をどのように見ていますか。

小川理事長　医療提供体制については、東京などに比べて余裕があると思いますが、本学の附属病院は県内唯一の特定機能病院※として、県民の命を守る高度医療を担っているほか、地域医療の拠点である中核病院として、県内はもとより北東北３県の広域的な地域医療を支えています。

このように地域医療において重要な役割を担っていることから、本学の附属病院内で感染者が発生すると、高度医療が停止するとともに、広域的な地域医療の支援ができなくなり、岩手県全体の医療崩壊につながってしまいます。このことから、地域医療を守るため、県や県医師会など関係機関の合意を得ながら、院内感染について細心の注意を払って運営しています。

── 感染拡大後の医療従事者の状況について、どのように感じていますか。

小川理事長　岩手県は、もともと医師や看護師が不足している中で、感染拡大後は感染リスクを抑えるために、２週間交替の勤務シフトへの移行を余儀なくされ、いつ収束するか分からない状況であることからも、医師や看護師の負担は非常に重いものとなっています。

── ＰＣＲ検査や感染者の治療などに当たっている医療従事者やその家族等への誹謗中傷について、どのように感じていますか。

小川理事長　岩手県民には、もともと真面目な県民性がありますが、そういう岩手県民でさえ、一部に誹謗中傷する人たちがいることについて、非常に残念に

※このインタビューは令和２年12月に行ったものであり、発言内容が本冊子発行時点における新型コロナウイルス感染症の情勢と異なる場合があります。

思っています。医療の現場で身を挺して支えているのは医師や看護師であり、そういう方々によって、どうにか岩手県の医療は機能している実情がありますので、医療従事者を励ましていただきたいと思います。

―― 地域医療を守っていくことの重要性について、広く県民に御理解をいただきながら進めていくことが必要と思いますが、岩手の地域医療は今後どうあるべきとお考えですか。

小川理事長　岩手県は、全国と比べても少ない医師数にもかかわらず、行政や県立病院、県医師会、本学が密に連携し、非常に効率の良い医療を提供できていると思います。今後も関係機関がそれぞれの務めを果たしながら、必要に応じて連携していくことが、岩手県の医療を守り続けていくための最も重要なポイントだと考えます。

また、チーム医療を機能させるためには、医師のほか看護師など他の医療従事者の役割も重要です。本学では明治30年（1897年）に、全国で６番目となる西洋式の看護学校を設立し、看護師を養成してきた歴史があり、現在に至るまで患者中心の医療を基本としています。令和３年３月には、本学の看護学部を開設して以来、初めての卒業生を輩出するほか、その他の看護師養成施設もできてきており、県内の医療人材を養成する体制は構築されつつあると考えています。

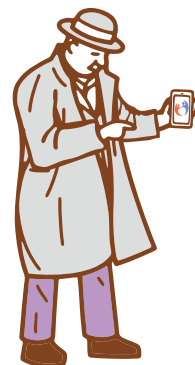
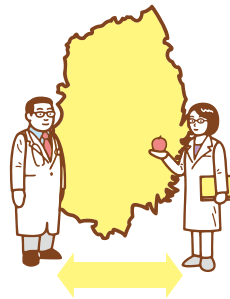
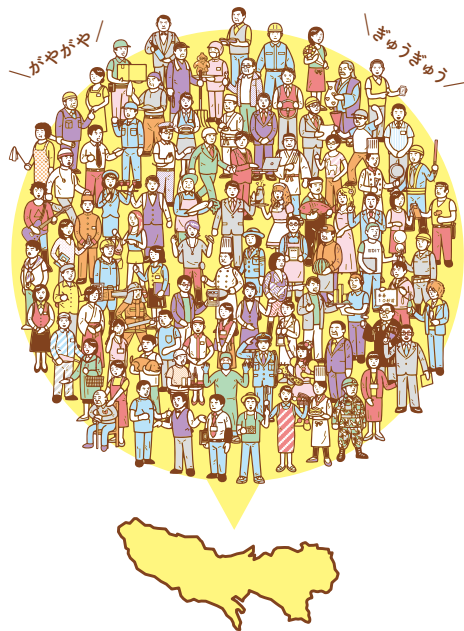
―― 最後に、感染拡大防止に向けて、県民へのメッセージをお願いします。

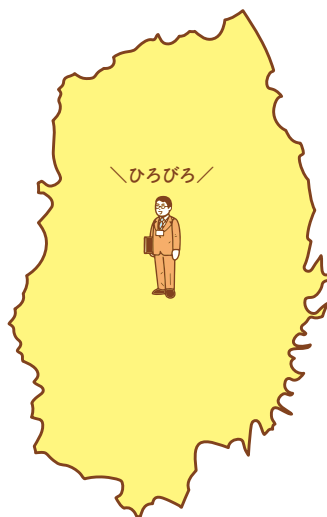
小川理事長　過去を振り返ると、東日本大震災津波の際に、岩手県民は困難に耐えながら模範的な行動をとってきたため、大きな混乱が生じることはありませんでした。その背景には、真面目な県民性や非常に高い道徳性を備えていることがあると思います。また、今回の新型コロナの感染拡大においても様々な問題が起こった中で、暴動やスーパーマーケットでの買い占めなどがそれほど問題にならなかったことからも、非常に冷静な県民性を備えていると思います。

今後も県民一人ひとりに医療従事者に対する感謝の気持ちを持っていただきながら、国民や世界の人々の模範となるような行動をとっていただき、持ち前の粘り強さでこの困難を乗り越えていければと考えています。

※特定機能病院…高度医療の提供や高度医療技術の開発、高度医療に関する研修を実施する能力等を備えた病院として、厚生労働大臣から承認を受けた病院。

真面目で慎重な県民性

長く厳しい冬を耐え抜く岩手県民は、総じて辛抱強く、真面目な気質。東日本大震災津波の際に避難所等で感染症の未然防止や拡大防止に取り組んできた経験を生かし、新型コロナウイルス感染症対策においても、手洗いの励行・マスクの着用・ソーシャルディスタンスの確保を徹底し、慎重な対応を心がけている。

いわては広い県土でソーシャルディスタンス！

岩手県が全国で唯一、感染者ゼロであり続けたのは、なぜだろう。その理由は、県民性や感染防止に適した環境などにある。

人口密度が低い

北海道に次いで面積の広い岩手県の人口は、約 121 万人。人口密度の低さも全国2位で、全国で最も高い東京都の 80 分の1となっており、岩手県ではルールを決めずとも、自然とソーシャルディスタンスが保てる快適な環境が広がっている。

不特定多数との接触が少ない

広大な県土を有する岩手県では、多くの県民が生活の足としてマイカーを利用しており、首都圏の満員電車のように多くの人と接する可能性が低い。また、パスポート保有率が高くないことが新型コロナウイルス感染症対策においては功を奏し、外国との出入りの少なさから、不特定多数との接触を回避することができている。

第2部

令和３年の幸福トレンド

「コロナ後における地域の幸福」

「全47都道府県幸福度ランキング」の監修やテレビ・ラジオなどのメディアへの出演、著述など幅広い分野で活動している一般財団法人日本総合研究所の寺島実郎会長から、岩手県が持続的に発展していくための潜在可能性や、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の幸福トレンド等についてお話を伺いました。

一般財団法人日本総合研究所　会長

寺島 実郎氏

てらしま・じつろう

早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産常務執行役員等を歴任し、現職。国土交通省、経済産業省など国の審議会委員を多数務める。著書及びメディア出演も多数。

―― 寺島会長は、岩手県についてどのような印象をお持ちでしょうか。

寺島会長　私は、大学院生のときに旧東山町に１か月間程度滞在し、旧文部省の機関のアルバイトとして地域のフィールド

ワークを行っていたことがありました。

また、私が主宰している戦略経営塾に岩手から２名参加いただいていることなどからも、岩手には遠からぬ縁があると感じています。

―― 寺島会長は、「全47都道府県幸福度ランキング」（以下「幸福度ランキング」という。）を監修なさっていますが、幸福に着目した理由や、幸福度ランキングの特徴についてお聞かせください。

寺島会長　幸福に着目する一つのきっかけとなったのは、ブータンが世界一幸福な国とされる議論です。この議論から分かったことは、産業・経済や自然環境など、判断基準となる価値によって幸福に対する考え方は多種多様であるということでした。

幸福度ランキングの特徴としましては、基本的に幸福とは、個人の自己意識に基づく主観的なものですが、このランキングづけを行うに当たっては、主観的なものを排除し、他の都道府県とフラットに対比できるよう数値化した客観的指標を用いました。

この指標は、2012年に最初のランキングを発刊した際は55項目でしたが、それ以降、社会経済の動向を反映させるため、およそ２年おきに指標の追加を行い、最新の2020年版では75項目となり、完成形に近づいていると思っています。

―― 幸福度ランキングにおける分析結果などを踏まえ、岩手県の課題や潜在可能性は、どのような点にあるとお考えですか。

寺島会長　幸福度ランキングにおいて、岩手県は基本指標の順位が全国で19位と決して低くありません。特に、食料自給率は６位と高く、一次産業を中心に相当しっかりした産業基盤を有しており、このことは岩手の幸福の大きな柱になると考えます。「食と農」に関連して言うと、岩手などの地方に暮らす多くの高齢者にとっては、首都圏に暮らす高齢者と異なり、畑など農作業ができる場所が身近にあり、仕事をリタイアした後も世の中のために自分が役に立っていることを実感することができる環境が整っていると思います。

このほかの岩手の強みとしては、県内に米軍基地や原子力発電所がないため、安心して生活できることが挙げられます。

一方、文化力、特に国際の領域には壁があると思います。この解決に向けては、新渡戸稲造や宮沢賢治といったスケールの大きい先人を輩出していることなど、岩手の強みである充実した歴史コンテンツの活用などが考えられます。例えば、県内外の新渡戸稲造ゆかりの地において開催されている「ＩＮＡＺＯサミット」を、地域間のより深い交流や観光の推進に向けたプラットフォームとして活用することなどに粘り強く取り組んでいくことが望ましいと思います。また、自己完結型ではない広がりのある文化活動を継続して岩手の魅力を放ち続けることにより、国内外のネットワークが拡大するとともに、国際交流の質が変わり、さらには、仕事や教育など他の分野の向上にもつながっていくと思います。

―― 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、社会構造や国民意識にどのような変化が生じているとお考えですか。

寺島会長　一般的には、東京一極集中の弊害が表面化し、リモートワークの普及などにより地方への分散が進む方向にあると言われていますが、このことを単純に捉えるべきではないと考えています。リモートワークには光と影の部分があり、例えば、仕事を通して自分の進歩や充実感を感じられることや、ある仕事を成し遂げた際に上司に褒められて承認されることなどは、幸福の要素の一つですが、リモートワークはこうした全人格的な喜びが妨げられる要因となりえます。また、特に首都圏の企業に勤める人の中には、通勤時間や勤務時間に縛られなくなるため、解放された気持ちになる人もいると思いますが、気持ちや時間に余裕ができたことで、立ち止まって考え、このまま今の会社に勤めていくことに疑問を抱き、会社への帰属意識が薄らいでくる人もいると思います。一方、企業にとっては、リモートワークを推進することによって従業員の給料や通勤費を削減することができるとともに、定年まで長期雇用するより、

入社後３年で退職する人がいるほうがコストを抑えられることから、退職希望者がいる場合は、むしろ積極的にこれを受け入れたほうが良いという考えになります。こうした考えが社会に浸透することは、非常に恐ろしいことです。

――　新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、今後、幸福度の向上につながるトレンドは、どのようなものになるとお考えですか。

寺島会長　これまで私たちは、日本の基幹産業と言われてきた工業を中心に生産力を高めていけば豊かになれると考えてきましたが、これからは頻発する自然災害や今般の新型コロナウイルス感染症などの疫病を乗り越え、安全・安心のマインドを高めていくことが、幸福度を高めていく上で、より重要になると思います。そのためにも、従来の産業構造を転換していく必要があると考えています。特に、防災産業や医療産業は、今後、さらに重要性が高まる成長分野です。このような分野について、例えば、日本総合研究所では全国の道の駅に可動式のコンテナ型医療・防災拠点を設置するプロジェクトを計画していますが、このようなプロジェクトを産学官が連携して実現していく必要があります。

――　最後に、幸福度を高めるために岩手県など地方に求められることについてお伺いします。

寺島会長　交流人口を拡大する観点では、岩手にゆかりのある首都圏在住者を把握して組織化し、意見交換会などの交流イベントを地道に開催するなど、アクティブに広がりを持って展開していく方向感が大事です。

また、リモートワークに関して言うと、都会に暮らす人が岩手に移住してリモートワークをしていれば幸せという単純なものではなく、岩手ののどかな空間の中で、リモートワーク以外の時間をどう活用するかが重要です。そのためには、どういう仕事があれば岩手に移住してもらえるのか、岩手に移住してみて幸せなのかといったことを分析し、東京と地方の関係性を捉え直した上で、何に意識を持って取り組んでいくべきかを明確にすることが求められます。

このような分析を行うためにも、幸福度ランキングにおける順位づけなどを参考としつつ、目標の実現に向けて発信力と求心力を高めながら取り組んでいくことを期待しています。

最後になりますが、幸福とは、結局のところ、人とのつながりによるところが大きく、人間が生きていく力になるものと考えます。自分を待っている家族がいるから帰らなければいけない、頑張らなければいけないという気持ちが幸福論の原点です。

先ほどの「食と農」の話で「つながり」をキーワードに述べるならば、食料自給率が高いからそれでよいということではありません。生産・加工・流通をバリューチェーンとしてつないで、ＤＸ※などのあらゆる新技術の要素を吸収して優位性を確立し、プロジェクトの実装化を積み上げて総合的に展開していくことが非常に重要と考えます。これらのことに留意しながら大いに取り組んでいってほしいと思います。

※ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）…高速インターネットやクラウドサービス、人工知能（ＡＩ）などのＩＴ（情報技術）によってビジネスや生活の質を高めていくこと。

【参考】「全47都道府県幸福度ランキング2020年版」における岩手県の全国順位

基本指標	人口増加率	一人当たり県民所得	選挙投票率（国政選挙）	食料自給率	財政健全度
19位	44位	31位	6位	6位	30位

分野	分野順位	領域	領域順位	現行指標※1		先行指標※2		
健康	総合 41位／現行 44位／先行 29位	医療・福祉	40位	生活習慣病受療者数 37位	気分障害受療者数 43位	産科・産婦人科医師数 29位	ホームヘルパー数 18位	高齢者ボランティア活動者比率 13位
		運動・体力	38位	健康寿命 31位	平均歩数 39位	健康診査受診率 16位	体育・スポーツ施設数 9位	スポーツの活動時間 45位
文化	総合 45位／現行 35位／先行 45位	余暇・娯楽	26位	教養・娯楽支出額 30位	余暇時間 25位	常設映画館数 43位	書籍購入額 15位	文化活動等ＮＰＯ認証数 8位
		国際	47位	外国人宿泊者数 31位	姉妹都市提携数 30位	語学教室にかける金額 47位	海外渡航者率 45位	留学生数 46位
仕事	総合 20位／現行 21位／先行 21位	雇用	11位	若者完全失業率 19位	正規雇用者比率 9位	高齢者有業率 13位	インターンシップ実施率 28位	大卒者進路未定者率 22位
		企業	38位	障碍者雇用率 19位	製造業労働生産性 44位	事業所新設率 15位	特許等出願件数 46位	本社機能流出・流入数 30位
生活	総合 31位／現行 20位／先行 40位	個人（家族）	23位	持ち家比率 23位	生活保護受給率 21位	待機児童率 33位	一人暮らし高齢者率 12位	インターネット人口普及率 44位
		地域	39位	汚水処理人口普及率 35位	道路整備率 21位	一般廃棄物リサイクル率 25位	エネルギー消費量 41位	地縁団体数 24位
教育	総合 30位／現行 11位／先行 45位	学校	38位	学力 39位	不登校児童生徒率 5位	司書教諭発令率 47位	大学進学率 43位	教員一人当たり児童生徒数 6位
		社会	22位	社会教育費 7位	社会教育学級・講座数 16位	学童保育設置率 39位	余裕教室活用率 28位	悩みやストレスのある者の率 30位

追加指標

年版					
2014年版	平均寿命 45位	自殺死亡者数 45位	信用金庫貸出平均利回り 29位	女性の労働力人口比率 22位	子どもの運動能力 9位
2016年版	自主防災組織活動カバー率 28位	農業の付加価値創出額 7位	合計特殊出生率 36位	刑法犯認知件数 2位	勤労者世帯可処分所得 29位
2018年版	市民農園面積 24位	コンビニエンスストア数 24位	訪日外国人客消費単価 19位	子どものチャレンジ率 8位	勤労者ボランティア活動者比率 13位
2020年版	地域子育て支援拠点箇所数 13位	男女の賃金格差 14位	高齢世帯の相対的貧困率 42位	総合型地域スポーツクラブ育成率 14位	一人当たりのごみ排出量 20位

※1 現状における経済・社会の安定度を示す指標　※2 将来あるべき姿を見据えた未来への投資の状況を示す指標

「地域資源を生かした岩手の幸福」

　国立競技場や高輪ゲートウェイ駅など、国内外で数多くの建築物を手掛けている建築家の隈研吾氏から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う状況の変化や、同氏が岩手県内で手掛けた建築物の活用による幸福度の向上などについてお考えを伺いました。

Photo (c) J.C. Carbonne

建築家

隈 研吾氏

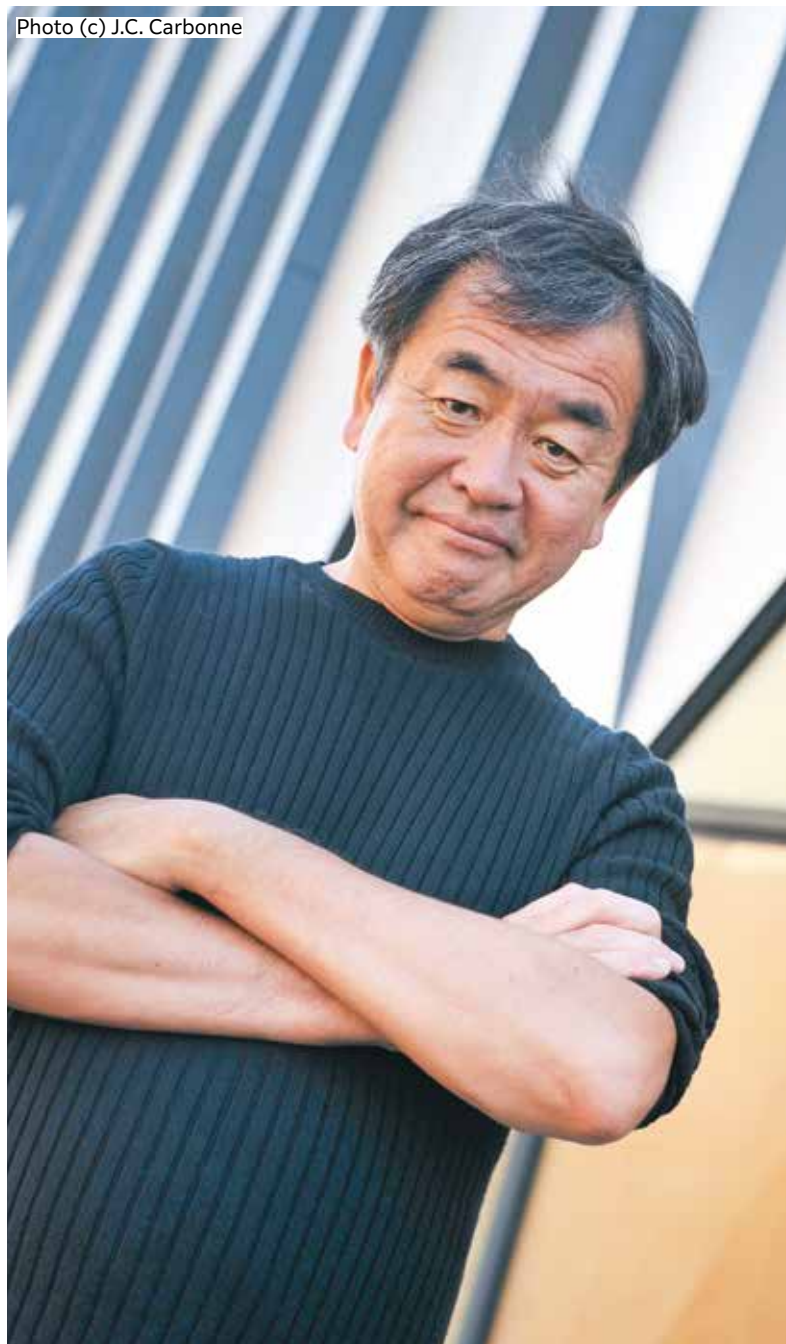
くま・けんご

1954年生。東京大学大学院建築学専攻修了。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。
1964年東京オリンピック時に見た丹下健三の代々木屋内競技場に衝撃を受け、幼少期より建築家を目指す。大学では、原広司、内田祥哉に師事し、大学院時代に、アフリカのサハラ砂漠を横断し、集落の調査を行い、集落の美と力にめざめる。コロンビア大学客員研究員を経て、1990年、隈研吾建築都市設計事務所を設立。これまで20か国を超す国々で建築を設計し、日本建築学会賞、国際木の建築賞（フィンランド）、国際石の建築賞（イタリア）など、国内外で様々な賞を受けている。その土地の環境、文化に溶け込む建築を目指し、ヒューマンスケールのやさしく、やわらかなデザインを提案している。また、コンクリートや鉄に代わる新しい素材の探求を通じて、工業化社会の後の建築のあり方を追求している。

　このコロナの時代に、岩手という美しい場所で二つの仕事ができて、とても幸せな気分になりました。仕事をしながら、岩手の未来や人類の未来について、思いをめぐらせました。

　コロナというのは、ホモサピエンスの歴史の流れを変えるような、大きな出来事だったと思います。今までのホモサピエンスの歴史は、「自然から都市へ」という一貫した流れでした。人間をハコに詰め込んで、効率的に働かせるために、都市が必要とされました。人々を都市に集中させ、都市の密度やビルをどんどん高くすることによって、効率を高め、経済を成長させるということが、ホモサピエンスの歴史であったわけです。

　しかし、この流れは、ホモサピエンスという生物にとっては、かなりきつくて、つらく、その身体のバランスを壊すほどに不自然なものでした。

　その代償として、ついにコロナによる警告という形で表れたのだと、僕は感じました。もう身体や精神がもたないと多くの人が考えていたにもかかわらず、

漫然と惰性的に「都市へ」と歩き続けていた我々は、コロナによって目を覚まされたのです。

そして、実際のところ、このＩＴの時代には、ハコの中が少しも効率的な場所ではなかったのです。激しいストレスを与え、すべてのものが高価になってしまった都市という場所は、人間にとって効率的でも経済的でもありませんでした。今日、ホモサピエンスが手に入れた技術をもってすれば、ハコの外や都市の外のほうが、はるかにストレスがなく、効率的に働き、ゆったりと暮らすことができたのです。多くの人はそれを薄々は感じていながら、「みんなもそうしているから」という理由で、ハコを出ようとせず、都市を離れようとしなかったのです。

翻って、ハコを出て、都市を離れるための行き先として、岩手という場所は極めて魅力的に見えます。僕自身、コロナの時期と重なりながら、岩手で２つの仕事をして、岩手の現場に来るたびに、身体が解き放たれ、心が癒されるのを感じました。

一つは、「グランドセイコースタジオ 雫石」のプロジェクトです。岩手山を正面に見る深い森の中で、世界のトップレベルの時計職人の皆さんが、まれに見る精度の高い時計を手で組み立てている様子自体が奇跡のようでした。

僕は、木造建築の仕事場を新たに用意することで、この奇跡をさらに磨き上げようと試み、世界にほとんど例のない、木造のクリーンルームができあがりました。それは、新しい時代の、新しい形をした効率を象徴する、世界中のグランドセイコーのファンの皆さんが訪れる聖地の一つといえるような場所となりました。

もう一つの岩手での仕事は、「陸前高田アムウェイハウス　まちの縁側」です。陸前高田市を含む気仙地方に、気仙大工という非常に腕の良い大工の集団がいるという話を、大学時代に恩師の内田祥哉先生から聞いて興味を持ちました。単に美しい木造建築を作るだけではなく、雪の荷重にも耐えられる、強くて合理的な木造技術を伝える、優秀な職人集団だという話が印象的でした。

この施設の仕事の依頼があり、真っ先に考えたことは、もし今でも気仙大工が仕事をしているのなら、何とか一緒になって新しい木造建築を作ろうということでした。彼らと一緒に仕事をできることが分かったときは、長年の夢がかなった子どものような気分でした。彼らの技のおかげで、この施設は、屋上の展望デッキにのぼると海が見えて気分が晴れやかになることからも、今まで僕が試みた木造建築にはない種類の、やさしいリズムの感じられる建築になりました。

この「陸前高田アムウェイハウス　まちの縁側」は、子どもからお年寄りまで、地域の様々な方たちの生活に密接に関わる場とすることを目的として建てられ、陸前高田市を訪れた観光客のためのインフォメーションセンターとしての役割も果たしています。この施設を日々の暮らしの延長の場として使っていただいている地域の皆さんに、安心感や安らぎを感じていただければという思いでデザインしており、気仙大工の技が、そして地元の杉の暖かな質感が、そのような効果をあげてくれます。僕の想像していた以上に、木の建物は、場所となじんでいます。

今後、コロナ後の新しい時代を迎えようとする中で、気仙大工に代表されるような人間のぬくもりの感じられる技や豊かな森、その森に支えられた豊かな海など、たくさんの宝物を持っている岩手という場所は、大きな可能性を持っています。極限までの集中で破綻しようとしている都市から逃れ、新しいライフスタイルに身を投じようと考えている人たちに、多くのヒントを与え、今までには考えられなかったような重要な役割を岩手が果たしていくでしょう。

グランドセイコースタジオ 雫石
令和２年７月オープン。施設内には、木造建築でありながら精密な機械式時計を組み立てるクリーンルームや、機械式時計の仕組みなどが学べる展示コーナー、岩手山を望むラウンジなどがある。

陸前高田アムウェイハウス まちの縁側
令和２年１月オープン。観光や福祉、子育て支援、市民の交流等の場としての機能を備える複合型コミュニティ施設。柱や梁に気仙スギを用い、気仙大工の工法を継承した構造となっている。

第3部

「希望郷いわて」の今

いわて幸福白書2021

第3部の概要

第３部では、県民の幸福感の現状や、県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果を紹介します。

県民の幸福感の現状については、毎年実施している県民意識調査(注１) の調査結果の中から、「主観的幸福感」、「幸福かどうかを判断する際に重視した事項」、「分野別実感」 の結果を掲載しています。

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果については、29 ページ以降、「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「いわて県民計画」という。) に掲げる 10 の政策分野ごとの政策評価の結果をダイジェストで掲載しています。

なお、10 の政策分野の概要は、27 ページをご覧ください。

※ 29 ページ以降の「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」は、令和２年 11 月に公表した「政策評価レポート 2020」を基に作成しているため、記載内容は公表当時のものです。「県民の幸福度向上に向けた県の取組や成果」の見方は 28 ページをご覧ください。

県民の幸福感の現状

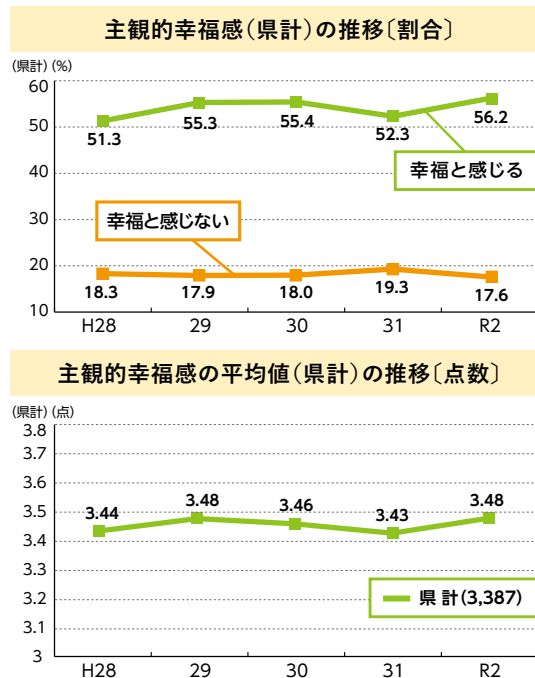
主観的幸福感

県民意識調査で、「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、５段階で把握したものです。

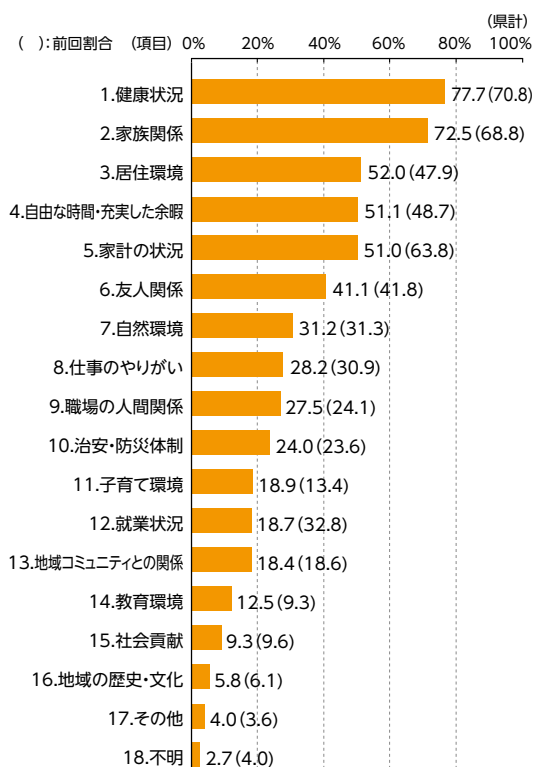
その結果、幸福と感じている人の割合は上昇しています。

また、「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」までの５段階の選択肢に応じて５点から１点を配点したところ、県全体の平均値は、５点満点中 3.48 点となりました。

主観的幸福感(県計)の推移〔割合〕

主観的幸福感の平均値(県計)の推移〔点数〕

幸福かどうかを判断する際に重視した事項

県民意識調査で、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に対し、下表の17の項目から該当する全てを選択いただいたものです。

その結果、幸福かどうか判断する際に重視する割合が高い順に「健康状況」、「家族関係」となっています。

分野別実感

県民意識調査で、「現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。」という設問に対し、下表の12の分野別実感を回答いただいたものです。

いわて県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、１分野で上昇、５分野で横ばい、６分野で低下が見られました。

実感の平均値が高い順に「自然の豊かさ」、「家族関係」、「地域の安全」となっています。なお、「自然の豊かさ」の実感は、４点を超えています。

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		H31 (基準年)	R2 (当該年)	H31とR2の差
Ⅰ 健康・余暇	(1)心身の健康	3.00	3.15	↑ (0.15)
	(2)余暇の充実	3.05	2.93	↓ (△0.12)
Ⅱ 家族・子育て	(3)家族関係	3.84	3.86	- (0.02)
	(4)子育て	3.08	3.07	- (△0.01)
Ⅲ 教育	(5)子どもの教育	3.10	3.09	- (△0.01)
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	(6)住まいの快適さ	3.34	3.29	- (△0.04)
	(7)地域社会とのつながり	3.35	3.16	↓ (△0.19)
Ⅴ 安全	(8)地域の安全	3.82	3.66	↓ (△0.16)
Ⅵ 仕事・収入	(9)仕事のやりがい	3.54	3.38	↓ (△0.16)
	(10)必要な収入や所得	2.65	2.56	↓ (△0.09)
Ⅶ 歴史・文化	(11)歴史・文化への誇り	3.28	3.25	- (△0.03)
Ⅷ 自然環境	(12)自然の豊かさ	4.21	4.16	↓ (△0.05)

(注) ①( )は前年調査との差。なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。
②検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記しています。

岩手県の政策評価

県では、いわて県民計画の実効性を高め、県民の幸福度の向上に向けた取組を着実に推進していくため、政策評価を実施しています。

10の政策分野の政策評価では、各政策分野に設定した、幸福に関連する客観的指標（いわて幸福関連指標）の達成状況に加え、県民意識調査で把握した政策分野ごとの実感(注2)、参考指標(注3)、社会経済情勢等を踏まえ、総合的に評価をしています。

<table>
<tr><th>評価区分</th><th colspan="2">10の政策分野の総合評価の基本的な考え方</th></tr>
<tr><td>A</td><td>政策分野ごとに、全ての指標が目標達成率 80%以上（指標達成度(注)【A】又は【B】）であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいることから、引き続き取組を推進するもの。</td><td rowspan="4">(注)
指標達成度の判定区分

【A】100%以上
【B】80%以上
100%未満
【C】60%以上
80%未満
【D】60%未満</td></tr>
<tr><td>B</td><td>政策分野ごとに、目標達成率 80%以上の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け概ね順調に進んでおり、一部見直しを行いながら、引き続き取組を推進するもの。
※全ての指標が目標達成率 80%以上であっても、県民の実感が基準年（H31 年）と比べ「低下」している場合には B とする。</td></tr>
<tr><td>C</td><td>政策分野ごとに、目標達成率 80%以上の指標が半数未満であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向けあまり順調に進んでいないことから、一部見直しのほか、より効果的な取組を検討するなど、一層の施策の推進が必要なもの。
※目標達成率 80%以上の指標が半数以上であっても、県民の実感が基準年（H31 年）と比べ「低下」している場合には C とする。</td></tr>
<tr><td>D</td><td>政策分野ごとに、目標達成率 60%未満（指標達成度【D】）の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいないことから、見直しや改善を行うなど、更なる重点的な施策の推進が必要なもの。</td></tr>
</table>

（注1）県民意識調査について

県では、県の施策に対する実感などを把握するため、「県の施策に関する県民意識調査」を実施しています。

調査の概要は次のとおりです。

①調査対象　県内に居住する 18 歳以上の男女
②対象者数　5,000 人
③抽出方法　選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
④調査方法　設問票によるアンケート調査（郵送法）
⑤調査時期　毎年1～2月
⑥回 収 率　令和2年調査は 67.7%（3,387 人 /5,000 人）

（注2）政策分野ごとの実感（分野別実感）について

県民意識調査では、政策分野に関連する実感を把握し、各政策分野の政策評価に活用しています。

なお、県民の幸福を下支えする共通土台として設定した「Ⅸ社会基盤」、「Ⅹ参画」の2分野については、関連する実感を把握していません。

（注3）参考指標について

県民の幸福に関連する統計データであるものの、毎年実績値を把握できないものや、個人の選択の自由に関連するものなど、目標値を設定して管理することになじまない統計データについては、「参考指標」として位置付けています。

参考指標の動向は、政策分野を取り巻く社会情勢の変化等とともに、政策分野の総合評価に反映されます。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと 一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

　県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成するあらゆる主体とともに、「10 の政策分野」の取組を展開していきます。

健康・余暇分野 (P29〜)

評価結果 C

　健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。

家族・子育て分野 (P32〜)

評価結果 B

　家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。

Ⅲ 教育分野 (P35〜)

評価結果 B

　学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。

Ⅳ 居住環境・コミュニティ分野 (P38〜)

評価結果 C

　不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。

安全分野 (P41〜)

評価結果 C

　災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。

Ⅵ 仕事・収入分野 (P44〜)

評価結果 C

　農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。

歴史・文化分野 (P47〜)

評価結果 B

　豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。

Ⅷ 自然環境分野 (P49〜)

評価結果 B

　一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。

Ⅸ 社会基盤分野 (P52〜)

評価結果 B

　防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。

参画分野 (P54〜)

評価結果 B

　男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。

「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」の見方

●政策分野名
10の政策分野名と政策分野の取組方向を記載しています。

●指標
いわて県民計画長期ビジョンに掲載しているいわて幸福関連指標の動向を中心に記載しています。詳しくは[いわて幸福関連指標の達成状況]をご覧ください。

●政策分野の総合評価
いわて幸福関連指標の状況、政策分野に係る県民の実感、政策分野の取組状況、他の主体の取組状況についてまとめた上で、当該政策分野の総合評価を A B C D の4段階で判定したものを記載しています。

●いわて幸福関連指標の達成状況
いわて幸福関連指標の目標値や令和元年度の値などを記載しています。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値が確定していない指標や順位を測定できない指標は「—」と表示しています。

●実感
幸福に関連する分野の実感の動向を記載しています。詳しくは[県民意識調査の結果(分野別実感の動向)]をご覧ください。

●いわて幸福関連指標の達成度
政策分野ごとのいわて幸福関連指標の達成度の構成比と指標数を円グラフで表示しています。
※構成比は、端数四捨五入の計算のため、100%にならない場合があります。

●全国順位(東北順位)
いわて幸福関連指標の、全国順位・東北順位を平成29年度現状値と比較しています。

●県民意識調査の結果
令和2年県民意識調査で得られた分野別実感の平均値の状況を記載しています。
【分野別実感の平均値の算出方法】
各調査項目の回答について、「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したものです。
【比較】
分野別実感の平均値について、基準年(H31)との比較において、次の結果であったものを記載しています。
上　昇：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、上昇した場合
横ばい：t検定の結果、5%未満で有意な変化が確認できなかったもの。
低　下：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、低下した場合

●取組状況
政策分野の取組方向を実現するための令和2年度の県の取組状況を記載しています。

●今後の取組方向
政策分野の取組方向を実現するための政策推進上の今後の取組方向を記載しています。

●参考指標
いわて幸福関連指標を補完するために設定した参考指標の状況を記載しています。

10の政策分野に対応するいわて幸福関連指標の状況
いわて幸福関連指標の指標名、目標値や令和元年度の目標に対する達成度などを記載しています。
【目標達成率の計算式】
・通常の指標（H29現状値から数値を上げる目標）
（R1実績値－H29現状値）／（R1目標値－H29現状値）×100
・マイナス指標（H29現状値から数値を下げる目標）
（H29現状値－R1実績値）／（H29現状値－R1目標値）×100
・維持指標等（H29現状値を維持する目標等）
（R1実績値）／（R1目標値等）×100
※なお、累計指標のうち、R1年度を累計の開始年としている指標など、この計算式により難い場合は、次の計算式により算出しています。
（R1実績値）／（R1目標値）×100

指標達成度	目標達成率
達成 A	100%以上
概ね達成 B	80%以上100%未満
やや遅れ C	60%以上80%未満
遅れ D	60%未満

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

Ⅰ 健康・余暇

**健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手**

実感　「心身の健康」は上昇、「余暇の充実」は低下しました。

指標　「健康寿命」は男女とも C 、「余暇時間」は D となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

健康的な食事推進マスター養成

しっかり食べても内臓脂肪をためにくい食事の普及啓発活動を推進する人材を育成するための養成講座を開催しました。

いわて医学奨学生セミナー

医学奨学生と先輩医師との交流などを目的とした「いわて医学奨学生セミナー」を、現役医学奨学生の有志による実行委員が主体となりオンライン形式で開催しました。

通いの場における シルバーリハビリ体操の実施

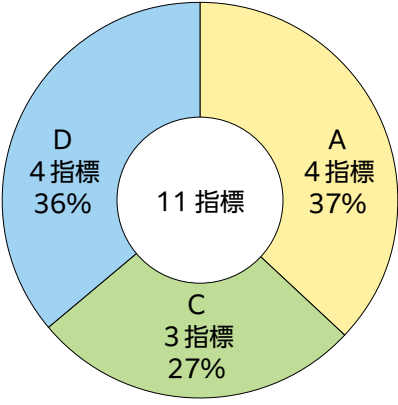
シルバーリハビリ体操指導者講習会の開催や通いの場への地域づくりアドバイザーの派遣を実施しています。

岩手芸術祭総合フェスティバル

新型コロナウイルス感染症の影響により来場できない人も鑑賞できるよう、ライブ配信を取り入れた「岩手芸術祭総合フェスティバル」を開催しました。

岩手県障がい者スポーツ大会の 競技別代替大会

新型コロナウイルス感染症の影響により中止された岩手県障がい者スポーツ大会の競技別代替大会として「岩手県パラ陸上記録会」等を実施しました。

県立美術館における 展覧会・イベントの開催

常設・企画展及び各種イベントを新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じながら実施しています。

今後の取組方向

- ○ 岩手県脳卒中予防県民会議と連携し、官民が一体となって生活習慣病の予防対策に取り組みます。
- ○ 疾病の早期発見、早期治療のためのがん検診及び特定健診の受診率向上に向けた取組を推進します。
- ○ 自殺対策推進協議会を通じて多様な関係者と連携・協力を図りながら、包括的な自殺対策プログラムを推進するほか、職域や高齢者等地域の特性や対象に応じた取組を推進します。
- ○ 余暇時間の増加のため、「働き方改革」の推進と、介護施設の整備や介護人材の確保に取り組みます。
- ○ 新型コロナウイルス感染症予防策を徹底し、インターネット配信なども活用し、文化芸術に触れる機会の提供に取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

- ● いわて幸福関連指標 11 指標は、達成度Ａの指標が４指標（37%）、達成度C、Dの指標が７指標（63%）でした。
- ● この政策分野に係る県民の実感は、「心身の健康」が上昇、「余暇の充実」が低下しました。
- ● この政策分野の取組状況は、介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりの取組が進みましたが、生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境づくりの取組については、遅れが見られています。
- ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、民間団体においても、自殺に関する相談などの取組が行われているなど、県以外の主体においても取組が推進されています
- ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
1	健康寿命〔平均自立期間〕	年	男性 ㉘ 79.32	③80.60	㉚79.83	79.63	C	—	—	—
2			女性 ㉘ 83.96	③84.84	㉚84.31	84.18	C	—	—	—
3	がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数〔10万人当たり〕	人	男性 ㉘ 305.1	③273.8	㉚295.9	298.2	C	—	—	—
4			女性 ㉘ 158.7	③135.7	㉚147.5	157.7	D	—	—	—

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
5	自殺者数〔10万人当たり〕	人	21.0	16.0	19.0	20.5	D	46位(5位)	46位(5位)	➡(➡)
6	地域包括ケア関連(元気な高齢者割合)※1	%	98.71	98.86	98.77	99.07	A	—	—	—
7	地域包括ケア関連(在宅医療連携拠点の事業区域数)	箇所	㉚16	27	17	20	A	—	—	—
8	余暇時間〔一日当たり〕※2	分	㉘373	390	378	372	D	—	—	—
9	県内の公立文化施設における催事数※3	件	1,316	1,385	1,344	1,261	D	—	—	—
10	スポーツ実施率	%	61.7	③65.0	㉚63.5	63.5	A	—	—	—
11	生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	40.2	44.2	41.2	42.7	A	—	—	—

※1　全国を100とした水準　　※2　休日を含む1週間の平均
※3　岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R1の値	備考
1	健康寿命〔日常生活に制限のない期間〕	年	男性 ㉘71.85	—	3年ごとの公表
2			女性 ㉘74.46	—	3年ごとの公表
3	喫煙率	%	㉘22.6	—	3年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目
こころやからだが健康だと感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.00	3.15	上昇

調査項目
余暇が充実していると感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.05	2.93	低下

II 家族・子育て

**家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、
また、安心して子育てをすることができる岩手**

実感 「家族関係」、「子育て」は、ともに横ばいとなりました。

指標 「男性の家事時間割合」は A 、「総実労働時間」は B 、「合計特殊出生率」は D となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

産後ケア事業

退院直後の母子に心身のケアや育児のサポート等を行う「産後ケア事業」の実施市町村の拡大に取り組みました。

親子体験活動（野外炊事）

子どもたちの豊かな体験活動の充実のため、県立青少年の家において親子体験活動事業を実施しました。

いわて親子フェスティバル

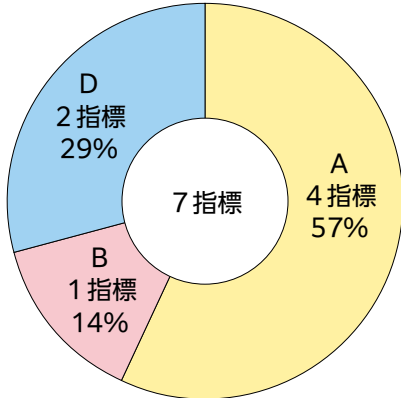
「家庭」における対話やふれあいを深める機会として、親子で楽しめるイベントを開催しました。

青少年を非行･被害から守る県民大会

青少年への理解を深め、非行・被害防止活動を推進するため、青少年育成に取り組む関係団体等と連携して県民大会を開催しました。

いわて働き方改革AWARD2020

「いわて働き方改革推進運動」を全県的に展開するため、「いわて働き方改革ＡＷＡＲＤ2020」を開催し、優良企業等を表彰しました。

犬猫の譲渡会

動物愛護団体等と連携した譲渡会の開催により、飼い主に返還されなかった動物について、新しい飼主への譲渡を実施しました。

今後の取組方向

- ○ 結婚サポートセンター「ｉ－サポ」におけるマッチング支援や新規会員の確保に向けた取組を推進します。
- ○ 安心して子どもを生み育てることができるよう、「いわて子育て応援の店」の登録促進や保育士の確保等に取り組むほか、市町村における産後ケア事業等の実施や計画的な施設整備の促進に取り組みます。
- ○ 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたテレワークの導入を含む企業の働き方改革の取組について一層支援し、働きやすい職場づくりを推進します。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

家族・子育て分野の評価結果	評価の説明
B	● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が5指標（71%）、達成度Dの指標が2指標（29%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「家族関係」が横ばい、「子育て」が横ばいとなりました。 ● この政策分野の取組状況は、健全で自立した青少年を育成する取組や、動物のいのちを大切にする社会づくりの取組が進みましたが、安心して子どもを生み育てられる環境づくりの取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において妊産婦を総合的に支援する体制づくりが進められているなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

いわて幸福関連指標の達成度

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考）全国順位（東北順位） H29	R1	比較
12	合計特殊出生率		1.47	1.58	1.51	1.35	D	33位(2位)	37位(4位)	↘(↘)
13	待機児童数〔4月1日時点〕	人	178	0	97	175	D	24位(4位)	28位(4位)	↘(→)
14	地域の行事に参加している生徒の割合〔中学生〕	%	㉚63.7	64.0	64.0	70.4	A	2位(1位)	3位(1位)	↘(→)
15	総実労働時間〔年間〕	時間	1,858.8	1,720.8	1,803.6	1,812.0	B	46位(5位)	47位(6位)	↘(↘)
16	共働き世帯の男性の家事時間割合〔週平均〕※	%	34.2	40.0	37.0	41.3	A	－	－	－

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
17	犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 98.0	99.0	98.4	100.0	A	―	―	―
18			猫 93.5	96.8	94.8	98.8	A	―	―	―

※　女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R1の値	備考
4	待機児童数〔10月1日時点〕	人	681	467	―
5	共働き男性の家事時間	分	100	128	―
6	共働き女性の家事時間	分	292	314	―
7	生涯未婚率	%	男性 ㉗26.16	―	5年ごとの公表
8			女性 ㉗13.07	―	5年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
家族と良い関係がとれていると感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.84	3.86	横ばい

調査項目
子育てがしやすいと感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.08	3.07	横ばい

Ⅲ 教育

**学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、
自分の夢を実現できる岩手**

実感　「子どもの教育」は、横ばいとなりました。

指標　「意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合」は小学生･中学生とも A 、「体力･運動能力が標準以上の児童生徒の割合」は小学生女子と中学生は男女とも B 、小学生男子は D 、「高卒者の県内就職率」は B 、「自己肯定感を持つ児童生徒の割合」は小学生･中学生とも D となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

ICT機器の整備

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るため、県立学校に大型提示装置等のＩＣＴ機器を整備しています。

高校総体代替大会の開催

高校総体の中止を受け、その代替大会としてウエイトリフティング競技は、「全国高等学校ウエイトリフティング競技通信記録会岩手県大会」として開催しました。

いわてで輝く若手人財PR動画

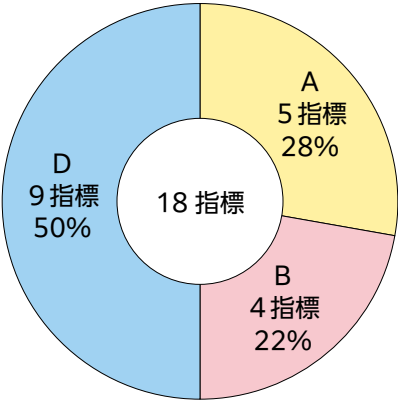
高校生等を対象に、県内製造業とそこで働く若手社員を紹介する動画を作成し、授業等で活用しました。

高校生との協働による橋梁点検

老朽化が進む橋梁について、高校生との協働による橋梁点検に取り組んでいます。

アスリートの競技力向上

国内大会や国際大会等で活躍する本県のアスリートの競技力の向上を図るため、競技団体などに対し遠征費などを支援しました。

大学等における県内企業紹介キャラバン

県内企業が県内の大学等を訪問して企業紹介や学生との交流を図るキャラバンを実施しました。

今後の取組方向

- ○ 対話的な学びを通じて児童生徒が自分の考え等を評価することができる授業づくり、学校教育全体を通じた道徳教育や人権教育等、運動（遊び）やスポーツに親しむ習慣を身に付けるための学校・家庭・地域が連携・協働した取組などを推進します。
- ○ 児童生徒が自己の在り方や生き方を考えるため、多様な体験活動の推進やキャリア教育の質の向上と充実に取り組みます。
- ○ 大学生等の地元定着の促進のため、高等教育機関や地元企業、関係団体と連携し、県内の大学生等に対し県内企業の魅力を伝えていく取組等を推進します。
- ○ 新型コロナウイルス感染症対策については、ＩＣＴの活用等により、学校の休業時などに学びを保障できる環境の整備を推進します。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

教育分野の評価結果	評価の説明
B いわて幸福関連指標の達成度 A 5指標 28% B 4指標 22% D 9指標 50% 18 指標	● いわて幸福関連指標 18 指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が９指標（50%）、達成度Ｄの指標が９指標（50%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「子どもの教育」は横ばいとなりました。 ● この政策分野の取組状況は、共に学び、共に育つ特別支援教育の取組が進みましたが、高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、各学校では、それぞれの実情に応じた教育の充実が図られ、家庭・地域・関係機関・団体等と連携したキャリア教育等や人材育成が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
19	意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 ㉚80.9	84.9	81.9	82.1	A	—	—	—
20			中 ㉚77.2	81.2	78.2	78.4	A	—	—	—
21	授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 ㉚80.7	84.7	81.7	78.9	D	—	—	—
22			中 ㉚80.0	84.0	81.0	77.8	D	—	—	—

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
23	人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	小 ㉚66	70	67	69	A	―	―	―
24			中 ㉚64	68	65	65	A	―	―	―
25			高 ㉚57	61	58	49	D	―	―	―
26	自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 ㉚82.3	85.0	83.0	80.5	D	―	―	―
27			中 ㉚76.9	80.0	77.0	72.6	D	―	―	―
28	体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小 男子 73.6	75.0	74.0	73.1	D	14位(2位)	9位(2位)	↗(➡)
29			小 女子 82.9	83.0	83.0	82.2	B	9位(2位)	10位(2位)	↘(➡)
30			中 男子 77.7	78.0	78.0	75.7	B	7位(1位)	7位(1位)	➡(➡)
31			中 女子 91.3	91.5	91.5	90.0	B	8位(1位)	12位(1位)	↘(➡)
32	特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	―	68.0	62.0	62.0	A	―	―	―
33	高卒者の県内就職率	%	65.8	84.5	84.5	68.5	B	39位(5位)	―	―
34	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 ㉚86.5	88.0	86.7	84.6	D	―	―	―
35			中 ㉚73.2	76.0	74.0	73.1	D	―	―	―
36	県内大学等卒業者の県内就職率	%	45.3	51.5	48.5	43.8	D	(1位)	(2位)	(↘)

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R1の値	備考
9	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 ㉚42	34	―
10			小 算数 ㉚50	48	―
11			中 国語 ㉚45	44	―
12			中 数学 ㉚54	53	―
13	不登校児童生徒数〔千人当たり〕	人	小 3.4	―	―
14			中 25.9	―	―
15			高 13.1	―	―

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目

子どものためになる教育が行われていると感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.10	3.09	横ばい

居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、
助け合って暮らすことができる岩手

実感　「住まいの快適さ」は横ばい、「地域社会とのつながり」は低下しました。

指標　「県外からの移住・定住者数」、「地縁的な活動への参加割合」は、ともに D となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

岩手型住宅の普及の取組

岩手型住宅の普及のため、地球温暖化に関するイベントで窓ガラスの断熱性の違いを体験するパネル展示を行いました。

公共交通機関における新型コロナウイルス感染症防止策

公共交通機関における新型コロナウイルス感染症対策に要する経費に対して補助を行いました。

地域おこし協力隊

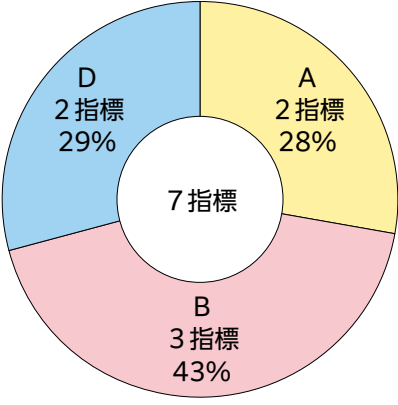
地域おこし協力隊が円滑に活動できるよう、スキルアップやネットワークづくりの支援等を行っています。

オンラインイベント「いわて移住week」

33市町村、企業33社が参加し、33時間にわたっていわての暮らしと仕事を発信するオンラインイベントを開催しました。

岩手県と中国・雲南省の友好交流

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、相互派遣交流は中止になったため、オンライン交流や雲南省の文化等に関する企画展示を行いました。

スポーツ大会の誘致

新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら、スポーツクライミング第33回リードジャパンカップを無観客で開催しました。

今後の取組方向

○ 良質な住宅の普及や空き家の利活用の促進、水道の広域連携の促進や効率的な汚水処理施設の整備など快適な居住環境づくりに取り組みます。
○ 持続可能なコミュニティづくりに向け、市町村と連携し、先駆的な活動に取り組む地域コミュニティ団体の認証、地域運営組織の形成促進等に取り組みます。
○ 移住希望者の関心を喚起する情報発信や県外企業を対象に本県におけるテレワーク等の実施に向けた取組を推進するなど、岩手ファンの拡大とU・Iターンの促進に取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

居住環境・コミュニティ分野の評価結果	評価の説明
C いわて幸福関連指標の達成度	● いわて幸福関連指標７指標は、達成度A、Bの指標が５指標（71%）、達成度Dの指標が２指標（29%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「住まいの快適さ」が横ばい、「地域社会とのつながり」が低下しました。 ● この政策分野の取組状況は、海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくりや文化芸術・スポーツを生かした地域づくりの取組が進みましたが、つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てる取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において、地域おこし協力隊等による、地域内の自発的な活性化に向けた取組が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R1	比較
37	県外からの移住・定住者数	人	1,091	1,757	1,320	1,190	D	―	―	―
38	汚水処理人口普及率	%	80.8	86.5	82.7	82.6	B	35位 (5位)	35位 (5位)	➡ (➡)
39	三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	17.5	17.5	17.5	16.1	B	―	―	―
40	地縁的な活動への参加割合	%	36.9	43.0	39.0	35.7	D	―	―	―
41	在留外国人数〔10万人当たり〕	人	527.0	748.6	612.6	661.3	A	45位 (4位)	45位 (4位)	➡ (➡)

指標名		単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
42	文化・スポーツ施設の入場者数(文化施設入場者数)※1	千人	168	③176	㉚170	185	A	—	—	—
43	文化・スポーツ施設の入場者数(スポーツ施設入場者数)※2	万人	805	806	806	757	B	—	—	—

※1　岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数
※2　県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

【参考指標】

調査項目		単位	現状値(H29)	R1の値	備考
16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	2,195	1,978	—
17	持ち家比率	%	㉕68.9	—	5年ごとの公表

［ 県民意識調査の結果(分野別実感の状況) ］

調査項目
住まいに快適さを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.34	3.29	横ばい

調査項目
地域社会とのつながりを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.35	3.16	低下

Ⅴ 安全

**災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手**

実感 「地域の安全」は、低下しました。

指標 「刑法犯認知件数」は A 、「自主防災組織の組織率」は B 、「交通事故発生件数」は D となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［取組状況］

自主防災組織活性化モデル事業

自主防災組織の活性化に向け、モデル地区を選定し、地区の防災上の課題を「見える化」するワークショップを開催しました。

安全安心まちづくり県民大会

犯罪のない安全で安心なまちづくりについて、県民の関心と理解をより一層深めるとともに、更なる活動を促進するため、県民大会を開催しました。

シグナル・ストップ広報

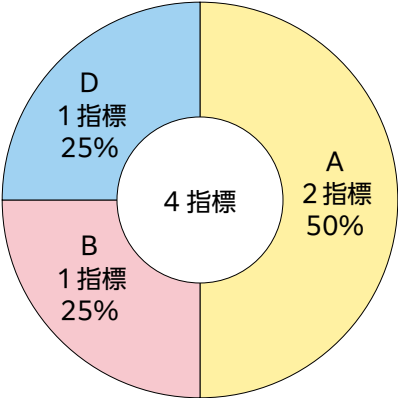
毎週水曜日を一斉活動日として、信号待ちドライバーに声かけ、チラシ配布等の交通安全指導を行う街頭活動を推進しました。

消費者見守り体制促進研修

高齢者等を消費者被害から守るため、介護・福祉関係者等を対象に、高齢者等の消費者被害の現状、被害の予防や早期発見・救済の方法等に関する研修を実施しました。

飲食業等における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の支援

飲食業等における新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、生活衛生営業指導センターを中心に、感染拡大予防ガイドラインに対応したモデル店舗を整備・選定し、同業種の営業者を対象とした現地勉強会を開催しました。

ICATによるPPE（個人用防護具）研修

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、医療機関等に対しいわて感染制御支援チーム（ICAT）によるPPE（個人用防護具）の装着に関する研修を実施しました。

今後の取組方向

○ 人材育成等を通じて、自主防災組織の組織化や活性化を図るとともに、消防団に対する支援の充実などにより地域コミュニティの防災力強化に取り組みます。
○ 県民の防犯意識の高揚、犯罪の発生状況に応じた対策の推進や関係機関などと連携した防犯活動などに取り組むとともに、子どもや高齢者の歩行者が被害に遭わないための街頭活動や参加・体験型の交通安全指導のほか、高齢運転者の交通事故防止を推進します。
○ 新型コロナウイルス感染症対策は、迅速に岩手県新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、ＩCAT（いわて感染制御支援チーム）を医療機関等に派遣する等、引き続き関係機関と連携した感染症の発生やまん延を防止する対策を推進します。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

- いわて幸福関連指標４指標は、達成度A、Bの指標が３指標（75%）、達成度Dの指標が1指標（25%）でした。
- この政策分野に係る県民の実感は、「地域の安全」が低下しました。
- この政策分野の取組状況は、食の安全・安心を確保し、地域に根ざした食育や感染症による脅威から一人ひとりの暮らしを守る取組が進みましたが、事故や犯罪が少なく、安全・安心に暮らせるまちづくりの取組については、遅れが見られています。
- この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において防災士資格の取得を促し、自主防災組織の中核を担う人材の育成に取り組むなど県以外の主体においても取組が推進されています。

◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

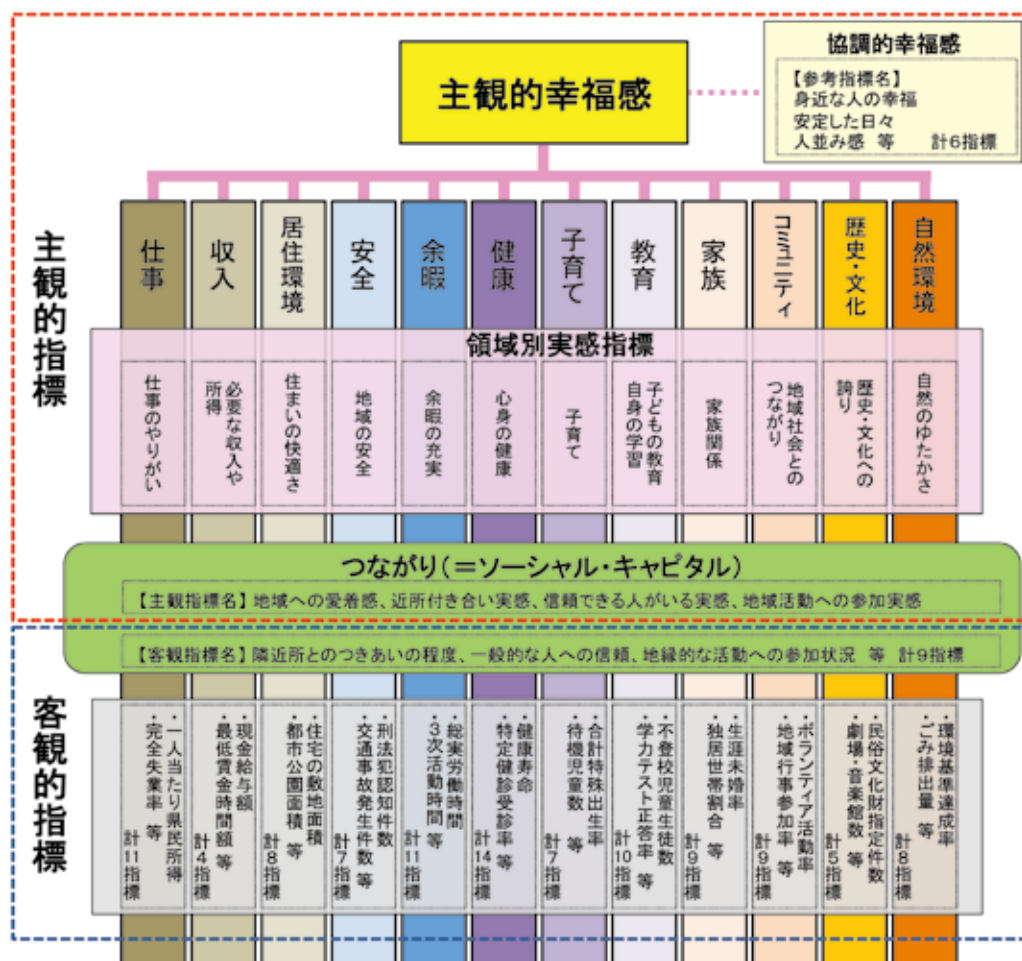
	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R1	比較
44	自主防災組織の組織率	%	86.9	90.0	88.1	87.9	B	27位(2位)	—	—
45	刑法犯認知件数〔千人当たり〕	件	㉚2.76	2.40	2.64	2.47	A	2位(2位)	2位(2位)	➡ (➡)
46	交通事故発生件数〔千人当たり〕	件	㉚1.58	1.20	1.47	1.59	D	2位(1位)	6位(2位)	↘ (↘)
47	食中毒の発生人数〔10万人当たり〕	人	13.7	13.0	13.5	2.3	A	30位(5位)	3位(2位)	↗ (↗)

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目	実感平均値		
	基準年[H31]	実績値[R2]	比較
お住まいの地域は安全だと感じますか	3.82	3.66	低 下

岩手の幸福に関する指標の体系図

いわて県民計画においては、県民や岩手県に関わる人々の幸福を守り育てるため、10 の政策分野を設定するとともに、それぞれに「いわて幸福関連指標」を設定して取組を展開することとしています。

この 10 の政策分野やいわて幸福関連指標の設定に当たっては、県民の「幸福」について的確に把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標研究会」において示された「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討が進められました。

【参照】「岩手の幸福に関する指標」研究会

VI 仕事・収入

**農林水産業やものづくり産業などの
活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手**

実感 「仕事のやりがい」、「必要な収入や所得」は、ともに低下しました。

指標 「一人当たり県民所得」、「総実労働時間【再掲】」、「高卒者の県内就職率【再掲】」は B、
「正社員の有効求人倍率」は D となりました。

令和2年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

就職マッチングサイト「シゴトバクラシバいわて」の運用

魅力ある企業情報を発信するとともに、5,000件以上の求人情報を掲載し、求職者と企業のマッチングを支援しています。

ヘルステック・イノベーション・ハブ

ヘルスケア産業の集積拠点施設「ヘルステック・イノベーション・ハブ」を開所し、産学連携による新製品開発を推進しています。

「買うなら岩手のもの運動」

買って、食べて地域を元気に応援キャンペーンを展開し、コロナ禍における県産品の消費拡大に取り組みました。

サケ・マス類の海面養殖試験

サケ・マス類の海面養殖を推進するため、県内各地で漁業協同組合等が行う実証試験を支援しています。

「いわて果実」プレミアムアフタヌーンティー

生産者・パティシエ等を対象に、県産果実の活用や食材としての魅力を学ぶ交流会を開催しました。

県民参加の森林づくり促進事業

いわての森林づくり県民税を活用し、地域住民等が森を学び活かすために取り組む植栽等の活動を支援しました。

今後の取組方向

○ 「いわてで働こう推進協議会」等による若年者や女性等の県内就職・創業への支援、あらゆる人がライフスタイルに応じた働き方ができる環境の整備を進めるとともに、地域の産業を担う人材確保が必要であることから、移住支援金の交付や就職相談等のU・Iターン対策に取り組みます。

○ 地域経済の活性化に向け、中小企業の経営力向上のための金融支援、自動車・半導体関連産業の集積の推進、地場産業の経営力や生産性の向上、県産品のPR、観光コンテンツの磨き上げや売込みなどに取り組みます。

○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、減少した航空需要の回復に向け、旅行商品の造成支援などによる国内線の利用促進のほか、農林水産物の販路の開拓・拡大を図るため、農林水産物の需要回復に向けて取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

仕事・収入分野の評価結果	評価の説明
C	● いわて幸福関連指標 14 指標は、達成度A、Bの指標が 11 指標（79%）、達成度Dの指標が３指標（21%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「仕事のやりがい」、「必要な収入や所得」ともに低下しました。 ● この政策分野の取組状況は、地域経済を支える中小企業の振興や農林水産業の意欲と能力のある経営体を育成する取組が進みましたが、地域経済に好循環をもたらす観光産業を盛んにする取組については遅れがみられています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、産学官金労で構成する「いわてで働こう推進協議会」が、県内就職等を支援するなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、C と判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R1	比較
48	一人当たり県民所得の水準※1	%	㉘88.7	②90.0	㉙90.0	86.9	B	―	―	―
49	正社員の有効求人倍率	倍	0.84	1.03	0.92	0.86	D	35位(5位)	41位(6位)	↘(↘)
50	総実労働時間〔年間〕【再掲】	時間	1,858.8	1,720.8	1,803.6	1,812.0	B	46位(5位)	47位(6位)	↘(↘)
51	完全失業率	%	2.1	1.6	1.9	2.1	D	13位(2位)	23位(2位)	↘(→)

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
52	高卒者の県内就職率【再掲】	%	65.8	84.5	84.5	68.5	B	39位(5位)	―	―
53	従事者一人当たりの付加価値額	千円	㉘5,983	③6,164	㉚5,983	5,727	B	38位(4位)	41位(5位)	↘(↘)
54	開業率※2	%	㉘3.2	③3.5	㉚3.2	3.2	A	44位(5位)	40位(3位)	↗(↗)
55	従事者一人当たりの製造品出荷額	百万円	㉘27.8	③29.2	㉚28.4	31.0	A	38位(4位)	32位(3位)	↗(↗)
56	観光消費額	億円	1,816.4	2,028.1	1,901.1	1,754.6	D	(5位)	―	―
57	農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	㉘3,990	③4,510	㉚4,190	4,601	A	―	―	―
58	林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	㉘4,450	③4,560	㉚4,490	5,030	A	―	―	―
59	漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	㉘4,340	③4,540	㉚4,420	4,833	A	―	―	―
60	農林水産物の輸出額	億円	28.2	36.0	31.1	36.7	A	―	―	―
61	グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,156	1,216	1,180	1,184	A	―	―	―

※1 全国を 100 とした標準　※2 雇用保険が新規に成立した事業所の比率

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R1の値	備考
18	非正規職員・従業員率	%	35.7	―	5年ごとの公表
19	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	㉘4,037	―	―
20	現金給与総額[5人以上、毎月]	円	277,009	280,218	―
21	農業産出額	億円	㉘2,609	㉚2,727	―
22	林業産出額	千万円	㉘2,015	㉚1,968	―
23	漁業産出額	千万円	㉘3,605	㉚3,788	―
24	製造品出荷額	億円	㉘23,717	㉚27,272	―
25	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	㉘15,964	㉚18,647	―
26	食料品製造出荷額	億円	㉘3,660	㉚3,870	―
27	水産加工品製造出荷額	億円	㉘729	㉚732	―
28	事業所新設率	%	㉔～㉖16.7	―	―

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目
仕事にやりがいを感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.54	3.38	低下

調査項目
必要な収入や所得が得られていると感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R2]	比較
2.65	2.56	低下

Ⅶ 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手

実感 「歴史・文化への誇り」は、横ばいとなりました。

指標 「世界遺産等の来訪者数」は B 、「国・県指定文化財件数」は C となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム

北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）の世界遺産登録を推進するため、縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラムを開催しました。

世界遺産「平泉」

世界遺産「平泉」の適切な保存管理を推進しています。

世界遺産出前授業

児童生徒が世界遺産に対する理解を深められるよう、世界遺産の出前授業を実施しました。

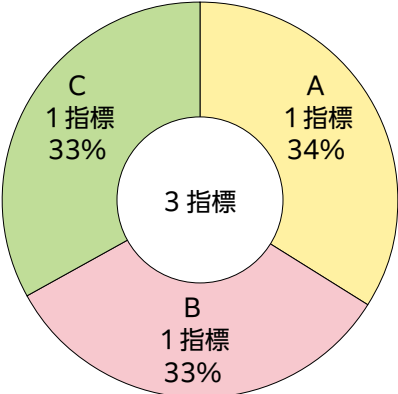
橋野鉄鉱山世界遺産登録5周年記念シンポジウム

世界遺産の理解増進を図るため、橋野鉄鉱山世界遺産登録５周年記念シンポジウムを開催しました。

岩手県民俗芸能フェスティバル

新型コロナウイルス感染症の影響により来場できない人も、発表・鑑賞できるよう、リモート出演やライブ配信等を取り入れ「岩手県民俗芸能フェスティバル」を開催しました。

文化財の活用事例の情報発信

歴史的建造物や史跡公園などの文化財を、会議やイベントなどの会場（ユニークベニュー）として、地域活性化等に活用している事例をホームページで情報発信しました。

今後の取組方向

○ 世界遺産の新規・拡張登録、世界遺産を核とした関連文化遺産ネットワークによる人的・文化的交流に取り組みます。

○ 国、県指定文化財の調査等に要する時間を短縮し、円滑な指定を図るための取組を推進します。
○ 民俗芸能の鑑賞・発表の場の確保、伝統文化の保存・継承、ホームページ等による伝統文化の魅力の発信に取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

歴史・文化分野の評価結果	評価の説明
B	● いわて幸福関連指標３指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が２指標（67％）、達成度Ｃの指標が１指標（33％）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「歴史・文化への誇り」が横ばいでした。 ● この政策分野の取組状況は、世界遺産の保存と活用や、伝統文化が受け継がれる環境をつくり交流を広げる取組が進みました。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「北海道・北東北の縄文遺跡群（御所野遺跡）」の世界遺産登録に向けた適切な保存管理や機運醸成の取組が推進されているほか、小・中・高等学校等において、民俗芸能の継承活動が行われているなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、**B** と判断しました。

いわて幸福関連指標の達成度

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R1	比較
62	世界遺産等の来訪者数	千人	927	950	927	885	B	―	―	―
63	国、県指定文化財件数	件	㉚565	581	569	568	C	31位（3位）	30位（3位）	↗（➡）
64	民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	396	396	396	405	A	―	―	―

［ 県民意識調査の結果（分野別実感の状況）］

調査項目
地域の歴史や文化に誇りを感じますか

実感平均値

基準年[H31]	実績値[R2]	比較
3.28	3.25	横ばい

自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手

実感 「自然の豊かさ」は低下しましたが、依然として高い水準にあります。

指標 「ハヤチネウスユキソウ個体数」、「自然公園の利用者数」、「再生可能エネルギーによる電力自給率」、は A 、「イヌワシつがい数」は B となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

希少野生植物の生息状況調査

早池峰山に生息する希少な高山植物の生息状況の調査を行いました。

いわての森林の感謝祭

県民参加による森林づくりを推進し、森林の恵みに感謝する行事として、植樹や育樹活動を行いました。

ジオ発見！～見て、触れて、食べて！三陸鉄道でめぐる旅～

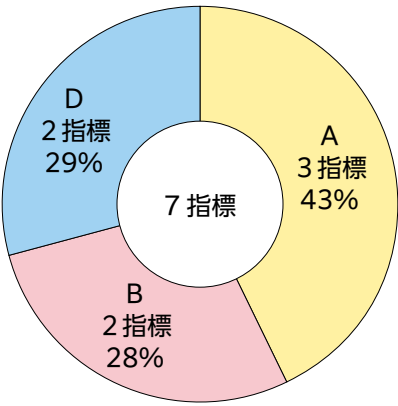
地域とジオパークの関わりについて理解を促進するため、久慈市・田野畑村のジオサイトを見学・体験するツアーを開催しました。

秋の海ごみゼロウィーク in 岩手

宮古市浄土ヶ浜など沿岸３か所で海岸清掃活動を行い、プラスチック類等の海洋ごみ対策への協力を呼びかけました。

できることからECOアクション！

温暖化防止いわて県民会議の事業者部会において、エネルギー需要が高まる冬季の省エネ・節電に関する優れた取組を表彰しました。

気候変動チャレンジフェスタ2020

気候変動や地球温暖化問題に対し、未来のために一人ひとりができることを楽しく学べるイベントを開催しました。

今後の取組方向

○ 希少野生動植物の保護や野生鳥獣の個体数管理に取り組みます。

○ 次期「岩手県地球温暖化対策実行計画」に基づき、省エネルギー対策の一層の推進や、本県の高いポテンシャルを生かした再生可能エネルギーの導入促進、森林吸収源対策などにより、温室効果ガス排出削減策を総合的に推進します。

○ ごみの分別や使い捨てプラスチックの削減等、３Ｒに基づいたライフスタイルの実践について、市町村等と一体となって普及啓発を行うとともに、廃棄物の発生抑制等に積極的な事業者の支援に取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

自然環境分野の評価結果	評価の説明
B	● いわて幸福関連指標７指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が５指標（71%）、達成度Ｄの指標が２指標（29%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「自然の豊かさ」が低下しましたが、依然として高い水準にあります。 ● この政策分野の取組状況は、多様で優れた環境を守り次世代に引き継ぐための取組や、地球温暖化防止に向け低炭素社会の形成を進める取組が進みましたが、循環型地域社会の形成に関する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、11 市町村が「2050 年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を表明し再生可能エネルギー導入促進に積極的に取り組むなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考）全国順位（東北順位）		
								H29	R1	比較
65	岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数（イヌワシつがい数）	ペア	29	29	29	27	B	―	―	―
66	岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数（ハヤチネウスユキソウ個体数）	株	667	667	667	1,021	A	―	―	―
67	自然公園の利用者数※	千人	466	470	470	576	A	―	―	―
68	公共用水域のBOD（生物化学的酸素要求量）等環境基準達成率	%	99.1	99.1	99.1	98.2	B	―	―	―

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
69	再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.0	37.0	29.0	34.4	A	—	—	—
70	一般廃棄物の最終処分量	千t	㉘40.6	③35.8	㉚38.6	41.3	D	16位(2位)	17位(3位)	↘(↘)
71	一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	㉘501	③465	㉚492	506	D	14位(1位)	17位(1位)	↘(➡)

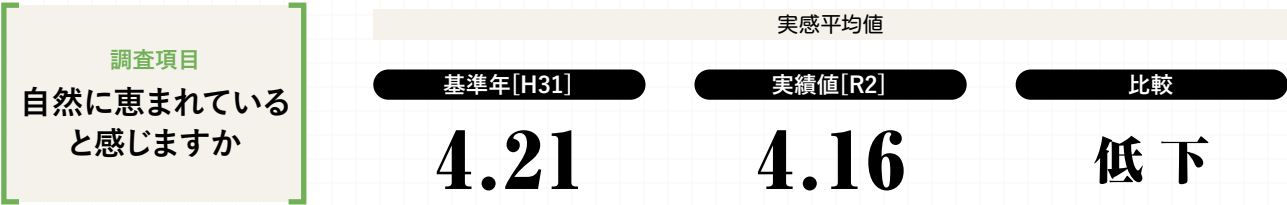
※　自然公園ビジターセンター等利用者数

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R1の値	備考
29	森林面積割合	%	㉖74.9	—	5年ごとの公表

［県民意識調査の結果(分野別実感の状況)］

調査項目
自然に恵まれていると感じますか

実感平均値		
基準年[H31]	実績値[R2]	比較
4.21	4.16	低下

社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手

指標　「河川整備率」は A 、「緊急輸送道路の整備延長」は B となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

いわてSociety 5.0フェア -ONLINE-

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、従来の集合型ではなく、オンラインにより最新のICT に係る展示会やセミナーを開催しました。

河川の改修

平成 28 年台風第 10 号により家屋浸水被害が発生した宮古市の刈屋川で進めてきた河川改修事業が完了しました。

緊急輸送道路の整備

災害に強い道路ネットワークを構築するため、国道 340 号押角峠工区などを整備しました。

道の駅「はなまき西南」

令和２年８月７日に県内 34 駅目となる道の駅「はなまき西南」～賢治と光太郎の郷～がオープンしました。

住民との協働による維持管理

住民との協働により、道路や河川・海岸の草刈りや清掃等の維持管理に取り組んでいます。

女性技術者との意見交換会

建設業のイメージアップによる入職促進を図るため、女性技術者と工業高校の生徒との意見交換会を開催しました。

今後の取組方向

○ 先端技術を活用した取組の推進や県民への科学・情報技術の普及啓発を行うとともに、通信事業者や市町村と連携し、情報通信インフラの整備促進に向けて取り組みます。

○ 国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の建設候補地として必要となる受入環境の整備に向けた調査検討、県内企業の加速器関連産業への参入及び受注の促進に向けた取組を推進します。

○ 自然災害から県民の暮らしを守るため、幹線道路の整備など災害に強い道路ネットワークの構築、救急搬送ルートや通学路等への歩道整備等日常生活を支える安全な道づくり、社会資本機能維持のための施設の適切な維持管理に取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

社会基盤分野の評価結果	評価の説明
B	● いわて幸福関連指標５指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が４指標（80%）、達成度Ｄの指標が１指標（20%）でした。 ● この政策分野の取組状況は、安全・安心を支える社会資本の整備や生活を支える社会資本を良好に維持管理し、次世代に引き継ぐ取組が進みましたが、科学・情報技術を活用できる基盤を強化する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、国において、三陸沿岸道路等高規格道路の整備が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Ｂ と判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
72	モバイル端末（スマートフォン）の人口普及率	%	51.5	78.1	61.9	56.0	D	42位(3位)	45位(4位)	↘(↘)
73	河川整備率	%	48.9	51.3	49.3	49.3	A	(1位)	(1位)	(→)
74	緊急輸送道路の整備延長	km	－	38.1	8.2	6.6	B	―	―	―
75	港湾取扱貨物量	万t	606	711	596	635	A	35位(5位)	―	―
76	社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	㉚413	413	413	413	A	―	―	―

X 参画

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

指標 「障がい者の雇用率」、「男性の家事時間割合【再掲】」は A 、「高齢者のボランティア活動比率」は B 、「労働者総数に占める女性の割合」は D となりました。

令和２年度の取組と今後の取組方向

［ 取組状況 ］

男女共同参画の視点からの防災･復興に関する研修

防災・復興に係る意思決定の場への女性の参画を促進するため、男女共同参画視点からの対応について理解が深まるよう、ワークショップを開催しました。

いわてネクストジェネレーションフォーラム2020

若者が地域の課題解決や自己実現を目指して、自由な発想で考え、話し合い、次への活動に繋げられるよう、多様な分野で活躍する若者の発表や交流の場となるイベントを開催しました。

いわて女性活躍認定企業等の認定

女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業等を「いわて女性活躍認定企業等」として認定しました。

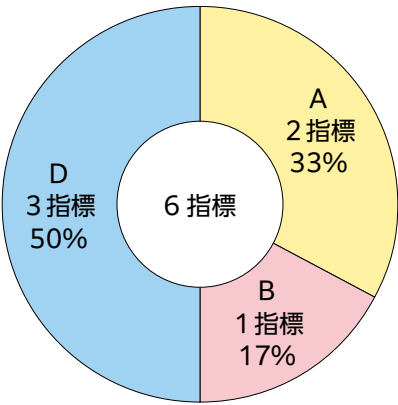
高齢者の地域活動交流会及び各種助成金説明会

高齢者の生きがいづくりと社会貢献活動の促進を図るため、高齢者の地域活動交流会と各種助成金に係る説明会を開催するなど高齢者団体等への活動支援を行っています。

農福連携

農林水産分野における障がい者の就労を促進するため、障がい福祉サービス事業所と農家等との農福連携の取組を支援しています。

いわて協働プラザ

多様な主体が連携した取組への理解促進と参加機運醸成のため、県民運動等の取組内容を情報発信しました。

今後の取組方向

○ いわて女性活躍企業等認定制度の更なる普及や女性活躍に向けた研修会等の実施を通じた女性が活躍できる職場環境づくりや、若年女性の県内定着に向けた取組を推進します。

○ 委員の改選期前に関係部局に個別に働きかけを行い審議会等の女性の登用を推進します。
○ 多様な主体による連携・協働の意義や実践事例に関するフォーラムの開催やＮＰＯ活動交流センターを拠点とした情報発信等により、県民の理解促進と参加・参画の機運醸成に取り組みます。

令和２年度の評価結果

［ 政策評価の結果 ］

● いわて幸福関連指標６指標は、達成度Ａ、Ｂの指標が３指標（50%）、達成度Ｄの指標が３指標（50%）でした。
● この政策分野の取組状況は、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくる取組や幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進する取組が進みました。
● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、金融機関、中間支援ＮＰＯ、税理士会、行政書士会により構成する「いわてソーシャルビジネスサポートネットワーク」において、地域課題解決に取り組むＮＰＯ法人等の支援が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。
◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、**B** と判断しました。

［ いわて幸福関連指標の達成状況 ］

	指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R1)	実績値(R1)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
								H29	R1	比較
77	労働者総数に占める女性の割合	%	38.1	40.7	39.1	37.2	D	17位(4位)	21位(4位)	↘(→)
78	障がい者の雇用率	%	2.16	2.30	2.20	2.27	A	16位(1位)	19位(2位)	↘(↘)
79	高齢者のボランティア活動比率	%	−	28.9	28.6	26.4	B	―	―	―
80	共働き世帯の男性の家事時間割合〔週平均〕※【再掲】	%	34.2	40.0	37.0	41.3	A	―	―	―
81	審議会等委員に占める女性の割合	%	㉚37.4	40.0	38.7	35.6	D	17位(2位)	―	―
82	ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	18.6	20.6	19.4	15.7	D	―	―	―

※ 女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

	調査項目	単位	現状値(H29)	R1の値	備考
30	管理職に占める女性の割合	%	12.3	―	5年ごとの調査

第４部

データ編

○政策分野の評価
・A B C Dの４段階で判定しています。
・いわて幸福関連指標の状況、県民意識の状況及び政策分野を取り巻く状況を踏まえ、総合的に評価を行っています。

○達成度
各年度の目標値に対する達成率（％）に応じて下の表のとおり判定しています。

達　成　度	目標達成率
達　　成【A】	100%以上
概ね達成【B】	80%以上100%未満
やや遅れ【C】	60%以上80%未満
遅　　れ【D】	60%未満

目標達成率の計算式

①通常の指標（H29現状値から数値を上げる目標の場合）：（年度実績値－H29現状値）/（年度目標値－H29現状値）×100
②マイナス指標（H29現状値から数値を下げる目標の場合）：（H29現状値－年度実績値）/（H29現状値－年度目標値）×100
③維持指標等（H29現状値等を維持する目標等の場合）：（年度実績値）/（R１目標値等）×100
※累計指標のうち、R１年度を累計の開始年としている指標など、この計算式により難い場合は、次の計算式により算出しています。
目標達成率＝（年度実績値）/（年度目標値）×100
※計画目標値（R１）を設定していない場合の進捗率は、当該指標の最終目標年度の進捗率を表示しています。

○補足
※▼印の指標は、H29現状値から数値を下げることを目標とするものです。
※◆印の指標は、H29現状値等を維持することを目標とするものです。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値が確定していない指標や順位を測定できない指標などは「−」と表示しています。

政策分野	政策分野の評価 R1	いわて幸福関連指標	参考指標	指標名	単位	現状値（H29）	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値（R4）	実績（R1） 実績値	実績（R1） 達成度	実績（R1） 進捗率（対R4目標）	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 H29との比較	出　典
Ⅰ 健康・余暇	C	1		健康寿命 [平均自立期間]	年	男 ㉘ 79.32	㉚ 79.83	① 80.09	② 80.34	③ 80.60	79.63	C	24.2	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
		2			年	女 ㉘ 83.96	㉚ 84.31	① 84.49	② 84.66	③ 84.84	84.18	C	25.0	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
		3		▼がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数 [10万人当たり]	人	男 ㉘ 305.1	㉚ 295.9	① 288.4	② 281.0	③ 273.8	298.2	C	22.0	-	-	-	-	-	-	人口動態統計（厚生労働省）
		4			人	女 ㉘ 158.7	㉚ 147.5	① 143.5	② 139.5	③ 135.7	157.7	D	4.3	-	-	-	-	-	-	人口動態統計（厚生労働省）
		5		▼自殺者数 [10万人当たり]	人	21.0	19.0	18.0	17.0	16.0	20.5	D	10.0	46	46	横ばい	5	5	横ばい	人口動態統計（厚生労働省）
		6		地域包括ケア関連 （元気な高齢者割合） ※全国を100とした水準	%	98.71	98.77	98.80	98.83	98.86	99.07	A	240.0	-	-	-	-	-	-	介護保険事業状況報告（厚生労働省）
		7		地域包括ケア関連 （在宅医療連携拠点の事業区域数）	箇所	㉚ 16	17	20	24	27	20	A	36.4	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
		8		余暇時間［一日当たり］ ※休日を含む１週間の平均	分	㉘ 373	378	382	386	390	372	D	-5.9	-	-	-	-	-	-	社会生活基本調査（総務省）、県民意識調査（岩手県）
		9		県内の公立文化施設における催事数 ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数	件	1,316	1,344	1,358	1,372	1,385	1,261	D	-79.7	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
		10		スポーツ実施率	%	61.7	㉚ 63.5	① 64.0	② 64.5	③ 65.0	63.5	A	54.5	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
		11		生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	40.2	41.2	42.2	43.2	44.2	42.7	A	62.5	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県） 県民生活基本調査（岩手県）
			1	健康寿命 [日常生活に制限のない期間]	年	男 ㉘ 71.85	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究
			2		年	女 ㉘ 74.46	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究
			3	喫煙率	%	㉘ 22.6	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	国民生活基礎調査（厚生労働省）
Ⅱ 家族・子育て	B	12		合計特殊出生率		1.47	1.51	1.53	1.55	1.58	1.35	D	-109.1	33	37	下降	2	4	下降	人口動態統計（厚生労働省）
		13		▼待機児童数 ［4月1日時点］	人	178	97	49	0	0	175	D	1.7	24	28	下降	4	4	横ばい	保育所等利用待機児童数調査（厚生労働省）
		14		◆地域の行事に参加している生徒の割合［中学生］	%	㉚ 63.7	64.0	64.0	64.0	64.0	70.4	A	27.5	2	3	下降	1	1	横ばい	全国学力･学習状況調査（文部科学省）
		15		▼総実労働時間 ［年間］	時間	1,858.8	1,803.6	1,776.0	1,748.4	1,720.8	1,812.0	B	33.9	46	47	下降	5	6	下降	毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）
		16		共働き世帯の男性の家事時間割合 ［週平均］ ※女性の家事時間に対する割合	%	34.2	37.0	38.0	39.0	40.0	41.3	A	122.4	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県） 県民生活基本調査（岩手県）
		17		犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 98.0	98.4	98.6	98.8	99.0	100.0	A	200.0	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ

政策分野	政策分野の評価	指標		指標の状況																出典
				指標名	単位	現状値（H29）	年度目標値			計画目標値（R4）	実績（R1）			全国順位			東北順位			
	R1	いわて幸福関連指標	参考指標				R1	R2	R3		実績値	達成度	進捗率（対R4目標）	H29	R1	H29との比較	H29	R1	H29との比較	
Ⅱ 家族・子育て	B	18		犬、猫の返還・譲渡率	%	猫 93.5	94.8	95.5	96.1	96.8	98.8	A	160.6	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
			4	待機児童数 [10月1日時点]	人	681	-	-	-	-	467	–	–	-	-	-	-	-	-	保育所等利用待機児童数調査（厚生労働省）
			5	共働き男性の家事時間	分	100	-	-	-	-	128	–	–	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県）県民生活基本調査（岩手県）
			6	共働き女性の家事時間	分	292	-	-	-	-	314	–	–	-	-	-	-	-	-	県民意識調査（岩手県）県民生活基本調査（岩手県）
			7	生涯未婚率	%	男 ㉗ 26.16	-	-	-	-	-	–	–	-	-	-	-	-	-	国勢調査（総務省）
			8		%	女 ㉗ 13.07	-	-	-	-	-	–	–	-	-	-	-	-	-	国勢調査（総務省）
Ⅲ 教育	B	19		意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 ㉚ 80.9	81.9	82.9	83.9	84.9	82.1	A	30.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		20			%	中 ㉚ 77.2	78.2	79.2	80.2	81.2	78.4	A	30.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		21		授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 ㉚ 80.7	81.7	82.7	83.7	84.7	78.9	D	-45.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		22			%	中 ㉚ 80.0	81.0	82.0	83.0	84.0	77.8	D	-55.0	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		23		人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	小 ㉚ 66	67	68	69	70	69	A	75.0	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ
		24			%	中 ㉚ 64	65	66	67	68	65	A	25.0	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ
		25			%	高 ㉚ 57	58	59	60	61	49	D	-200.0	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ
		26		自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 ㉚ 82.3	83.0	83.5	84.0	85.0	80.5	D	-66.7	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		27			%	中 ㉚ 76.9	77.0	78.0	79.0	80.0	72.6	D	-138.7	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		28		体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小 男 73.6	74.0	74.0	74.5	75.0	73.1	D	-35.7	14	9	上昇	2	2	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
		29			%	◆小 女 82.9	83.0	83.0	83.0	83.0	82.2	B	24.8	9	10	下降	2	2	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
		30			%	◆中 男 77.7	78.0	78.0	78.0	78.0	75.7	B	24.3	7	7	横ばい	1	1	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
		31			%	◆中 女 91.3	91.5	91.5	91.5	91.5	90.0	B	24.6	8	12	下降	1	1	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）
		32		特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	–	62.0	64.0	66.0	68.0	62.0	A	91.2	-	-	-	-	-	-	県教育委員会調べ
		33		◆高卒者の県内就職率	%	65.8	84.5	84.5	84.5	84.5	68.5	B	20.3	39	-	-	5	-	-	岩手労働局調査
		34		将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 ㉚ 86.5	86.7	87.0	87.5	88.0	84.6	D	-126.7	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		35			%	中 ㉚ 73.2	74.0	74.5	75.5	76.0	73.1	D	-3.6	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
		36		県内大学等卒業者の県内就職率	%	45.3	48.5	49.5	50.5	51.5	43.8	D	-24.2	-	-	-	1	2	下降	岩手労働局調査
			9	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 ㉚ 42	-	-	-	-	34	–	–	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			10		%	小 算数 ㉚ 50	-	-	-	-	48	–	–	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			11		%	中 国語 ㉚ 45	-	-	-	-	44	–	–	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			12		%	中 数学 ㉚ 54	-	-	-	-	53	–	–	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査（文部科学省）
			13	不登校児童生徒数 [千人当たり]	人	小 3.4	-	-	-	-	-	–	–	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）
			14		人	中 25.9	-	-	-	-	-	–	–	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）
			15		人	高 13.1	-	-	-	-	-	–	–	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（文部科学省）

政策分野	政策分野の評価 R1	いわて幸福関連指標	参考指標	指標名	単位	現状値(H29)	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値(R4)	実績(R1) 実績値	実績(R1) 達成度	実績(R1) 進捗率(対R4目標)	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 H29との比較	出典
Ⅳ 居住環境・コミュニティ	C	37		県外からの移住・定住者数	人	1,091	1,320	1,452	1,597	1,757	1,190	D	14.9	-	-	-	-	-	-	県商工労働観光部調べ
		38		汚水処理人口普及率	%	80.8	82.7	83.9	85.2	86.5	82.6	B	31.6	35	-	-	5	-	-	県県土整備部調べ
		39		◆三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	16.1	B	23.0	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ
		40		地縁的な活動への参加割合	%	36.9	39.0	40.0	41.5	43.0	35.7	D	-19.7	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
		41		在留外国人数 [10万人当たり]	人	527.0	612.6	656.5	702.1	748.6	661.3	A	60.6	45	-	-	4	-	-	在留外国人統計(法務省)
		42		(文化施設入場者数) ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数	千人	168	㉚170	①172	②174	③176	185	A	212.5	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
		43		(スポーツ施設入場者数) ※◆県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数	万人	805	806	806	806	806	757	B	23.5	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
			16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	2,195	-	-	-	-	1,978	−	−	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ
			17	持ち家比率	%	㉕68.9	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	国勢調査(総務省)
Ⅴ 安全	C	44		自主防災組織の組織率	%	86.9	88.1	88.7	89.4	90.0	87.9	B	32.3	27	-	-	2	-	-	消防防災・震災対策現況調査(消防庁)
		45		▼刑法犯認知件数 [千人当たり]	件	㉚2.76	2.64	2.56	2.48	2.40	2.47	A	80.6	2	2	横ばい	2	2	横ばい	県警察本部調べ
		46		▼交通事故発生件数 [千人当たり]	件	㉚1.58	1.47	1.37	1.28	1.20	1.59	D	-2.6	2	6	下降	1	2	下降	県警察本部調べ
		47		▼食中毒の発生人数 [10万人当たり]	人	13.7	13.5	13.4	13.2	13.0	2.3	A	1,628.6	30	3	上昇	5	2	上昇	食中毒統計資料(厚生労働省)
Ⅵ 仕事・収入	C	48		◆一人当たり県民所得の水準 ※全国を100とした水準	%	㉘88.7	㉙90.0	㉚90.0	①90.0	②90.0	86.9	B	24.1	-	-	-	-	-	-	県民経済計算年報(内閣府経済社会総合研究所)
		49		正社員の有効求人倍率	倍	0.84	0.92	0.96	1.00	1.03	0.86	D	10.5	35	41	下降	5	6	下降	一般職業紹介状況(岩手労働局)
		50		▼総実労働時間 [年間]【再掲】	時間	1,858.8	1,803.6	1,776.0	1,748.4	1,720.8	1,812.0	B	33.9	46	47	下降	5	6	下降	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)
		51		▼完全失業率	%	2.1	1.9	1.8	1.7	1.6	2.1	D	0.0	13	23	下降	2	2	横ばい	労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局)
		52		◆高卒者の県内就職率【再掲】	%	65.8	84.5	84.5	84.5	84.5	68.5	B	20.3	39	-	-	5	-	-	岩手労働局調査
		53		従業者一人当たりの付加価値額	千円	㉘5,983	㉚5,983	①6,043	②6,103	③6,164	5,727	B	92.9	38	-	-	4	-	-	企業活動基本調査(経済産業省)
		54		開業率 ※雇用保険が新規に成立した事業所の比率	%	㉘3.2	㉚3.2	①3.3	②3.4	③3.5	3.2	A	91.4	44	40	上昇	5	3	上昇	雇用保険事業年報(厚生労働省)
		55		従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	㉘27.8	㉚28.4	①28.7	②28.9	③29.2	31.0	A	228.6	38	-	-	4	-	-	工業統計調査(経済産業省)
		56		観光消費額	億円	1,816.4	1,901.1	1,943.4	1,985.8	2,028.1	1,754.6	D	-29.2	-	-	-	5	-	-	県観光入込客統計
		57		農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	㉘3,990	㉚4,190	①4,290	②4,400	③4,510	4,601	A	117.5	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
		58		林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	㉘4,450	㉚4,490	①4,510	②4,540	③4,560	5,030	A	527.3	-	-	-	-	-	-	生産林業所得累計統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
		59		漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	㉘4,340	㉚4,420	①4,460	②4,500	③4,540	4,833	A	246.5	-	-	-	-	-	-	漁業産出額統計(農林水産省)、県農林水産部調べ
		60		農林水産物の輸出額	億円	28.2	31.1	32.7	34.3	36.0	36.7	A	109.0	-	-	-	-	-	-	岩手県貿易等実態調査(県商工、日本貿易振興機構)
		61		グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,156	1,180	1,192	1,204	1,216	1,184	A	46.7	-	-	-	-	-	-	県農林水産部調べ
			18	非正規職員・従業員率	%	35.7	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)
			19	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	㉘4,037	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	県民経済計算(総務省)
			20	現金給与総額 [5人以上、毎月]	円	277,009	-	-	-	-	280,218	−	−	-	-	-	-	-	-	毎月勤労統計調査(厚生労働省)

政策分野	政策分野の評価 R1	いわて幸福関連指標	参考指標	指標名	単位	現状値(H29)	年度目標値 R1	年度目標値 R2	年度目標値 R3	計画目標値(R4)	実績(R1) 実績値	実績(R1) 達成度	実績(R1) 進捗率(対R4目標)	全国順位 H29	全国順位 R1	全国順位 H29との比較	東北順位 H29	東北順位 R1	東北順位 H29との比較	出典
Ⅵ 仕事・収入	C		21	農業産出額	億円	㉘2,609	-	-	-	-	㉚2,727	−	−	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計等(農林水産省)
			22	林業産出額	千万円	㉘2,015	-	-	-	-	㉚1,968	−	−	-	-	-	-	-	-	農林水産統計(農林水産省)
			23	漁業産出額	千万円	㉘3,605	-	-	-	-	㉚3,788	−	−	-	-	-	-	-	-	農林水産統計(農林水産省)
			24	製造品出荷額	億円	㉘23,717	-	-	-	-	㉚27,272	−	−	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)
			25	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	㉘15,964	-	-	-	-	㉚18,647	−	−	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)
			26	食料品製造出荷額	億円	㉘3,660	-	-	-	-	㉚3,870	−	−	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)
			27	水産加工品製造出荷額	億円	㉘729	-	-	-	-	㉚732	−	−	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)
			28	事業所新設率	%	㉔～㉖16.7	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	経済センサス(総務省)
Ⅶ 歴史・文化	B	62		世界遺産等の来訪者数	千人	927	927	927	937	950	885	B	93.2	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
		63		国、県指定文化財件数	件	㉚565	569	573	577	581	568	C	18.8	31	30	上昇	3	3	横ばい	県教育委員会調べ
		64		◆民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	396	396	396	396	396	405	A	25.6	-	-	-	-		-	県文化スポーツ部調べ
Ⅷ 自然環境	B	65		◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	29	29	29	29	29	27	B	23.3	-	-	-	-	-	-	県環境保健研究センター調べ
		66		◆岩手の代表的希少野生動植物の個体・つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数)	株	667	667	667	667	667	1,021	A	38.3	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		67		◆自然公園の利用者数 ※自然公園ビジターセンター等利用者数	千人	466	470	470	470	470	576	A	30.6	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		68		◆公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	99.1	99.1	99.1	99.1	99.1	98.2	B	24.8	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		69		再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.0	29.0	35.0	36.0	37.0	34.4	A	71.1	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		70		▼一般廃棄物の最終処分量	千t	㉘40.6	㉚38.6	①37.6	②36.7	③35.8	41.3	D	-14.6	16	17	下降	2	3	下降	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
		71		▼一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	㉘501	㉚492	①483	②474	③465	506	D	-13.9	14	17	下降	1	1	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
			29	森林面積割合	%	㉖74.9	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	農林業センサス(農林水産省)
Ⅸ 社会基盤	B	72		モバイル端末(スマートフォン)の人口普及率	%	51.5	61.9	67.3	72.7	78.1	56.0	D	16.9	42	45	下降	3	4	下降	通信利用動向調査(総務省)
		73		河川整備率	%	48.9	49.3	50.0	50.8	51.3	49.3	A	16.7	-	-	-	1	1	横ばい	県県土整備部調べ
		74		緊急輸送道路の整備延長	km	-	8.2	21.8	25.9	38.1	6.6	B	17.3	-	-	-	-	-	-	県県土整備部調べ
		75		港湾取扱貨物量	万t	606	596	614	623	711	635	A	89.3	35	-	-	5	-	-	港湾統計(国土交通省)
		76		◆社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	㉚413	413	413	413	413	413	A	25.0	-	-	-	-	-	-	県県土整備部調べ
Ⅹ 参画	B	77		労働者総数に占める女性の割合	%	38.1	39.1	39.6	40.1	40.7	37.2	D	-34.6	17	21	下降	4	4	横ばい	賃金構造基本統計調査(厚生労働省)
		78		障がい者の雇用率	%	2.16	2.20	2.20	2.30	2.30	2.27	A	78.6	16	19	下降	1	2	下降	障害者雇用状況報告の集計結果(岩手労働局)
		79		高齢者のボランティア活動比率	%	-	28.6	28.7	28.8	28.9	26.4	B	91.3	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)
		80		共働き世帯の男性の家事時間割合[週平均]【再掲】※女性の家事時間に対する割合	%	34.2	37.0	38.0	39.0	40.0	41.3	A	122.4	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)
		81		審議会等委員に占める女性の割合	%	㉚37.4	38.7	40.0	40.0	40.0	35.6	D	-69.2	17	-	-	2	-	-	県環境生活部調べ
		82		ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	18.6	19.4	19.8	20.2	20.6	15.7	D	-145.0	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)
			30	管理職に占める女性の割合	%	12.3	-	-	-	-	-	−	−	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)